

平成30年度 議会報告会

結果報告書



栃木市議会
議会報告会運営委員会



－報告書目次－

1. 開催概要	1
2. 議会報告に対する質疑と回答	4
3. フリートークの概要	9
4. フリートークで出された意見、要望	
(1) 議会に対する要望	10
(2) 市執行部に対する要望	
①総合政策部	11
②総務部	11
③財務部	12
④生活環境部	12
⑤保健福祉部	13
⑥こども未来部	14
⑦産業振興部	14
⑧建設部	14
⑨都市整備部	15
⑩上下水道局	15
⑪教育部	15
⑫生涯学習部	16
5. 常任委員会意見交換における意見等	18
6. TOCHICO☆サロン特別版	
議員とのおしゃべり会における意見等	22
7. アンケート結果	
(1) 議員アンケート	28
(2) 市民アンケート	37
8. 平成31年度議会報告会への提言	43
参考資料	
・議会報告会運営委員会の設置	45
・平成30年度栃木市議会報告会開催要領	46
・議会報告会運営委員会開催状況	49
・議会報告資料	50
・フリートークにおける主な意見、要望、回答	63
・平成29年度 議会報告会開催に伴う提言書に対する市の対応	79

1. 開催概要

(1) 開催結果

日 程	会 場	参加者数(人)	開催時間 (分)	フリートーク (分)
10月25日(木)	国府公民館	28	85	45
	大平健康福祉センター	33	90	35
10月26日(金)	皆川公民館	40	94	30
	西方公民館	75	105	65
10月29日(月)	栃木文化会館	32	87	45
	藤岡公民館	18	93	43
10月30日(火)	都賀公民館	32	90	17
	岩舟公民館	37	92	39
参加者数合計(A)		295		
1会場あたりの平均		37		
平成29年度実績(9会場)		198人/平均22人		

子育て世代意見交換会

日 程	会 場	参加者数(人) (B)	開催時間 (分)	フリートーク (分)
11月3日(土)	栃木保健福祉センター	14	85	48

常任委員会(意見交換会)

委員会名	日程・場所	参加者数(人)
	相手・テーマ	
総務常任委員会	11月13日(火) 栃木市役所(全員協議会室)	8
	自主防災組織 ・「自主防災組織の活動状況と課題について」	
民生常任委員会	11月1日(木) 栃木市役所(全員協議会室)	9
	障がい者団体代表 ・「障がい者差別解消について」	
産業教育常任委員会	11月28日(水) 栃木市役所(議会会議室)	4
	「蔵の街とちぎビジネスプランコンテスト2017」受賞者 ・「栃木市の創業支援について」	
建設常任委員会	11月2日(金) 栃木市役所(議会会議室)	6
	栃木県宅地建物取引業協会(県南支部) ・「これからの本市における移住・定住に関わる空き家対策について」	
合 計(C)		27

平成30年度参加者合計

(A)+(B)+(C)

336

(2) 班編成

班名・会場	氏名	班名・会場	氏名
1 班 皆川公民館 都賀公民館	森戸雅孝	2 班 国府公民館 栃木文化会館	大浦兼政
	小平啓佑		古沢ちい子
	大谷好一		坂東一敏
	氏家晃		内海成和
	白石幹男		入野登志子
	大阿久岩人		平池紘士
	小堀良江		松本喜一
3 班 大平健康福祉センター 西方公民館	川上均	4 班 藤岡公民館 岩舟公民館	浅野貴之
	小久保かおる		青木一男
	千葉正弘		茂呂健市
	永田武志		針谷育造
	広瀬義明		福富善明
	針谷正夫		関口孫一郎
	福田裕司		梅澤米満
天谷浩明			

(議席番号順)



(3) 報告会内容

報告会は、報告の説明10分、質疑応答5分を第1部とし、フリートーク60分を第2部、まとめとしてグループごとの発表10分を第3部とし、全体で1時間30分程度の会議を基本とする。

- (1) 開会 (司会)
- (2) あいさつ (班長)
- 自己紹介 (議員)



《第1部》

- (3) 議会報告 (10分) (各班報告者)
 - ① 斎場整備について
 - ② 9月議会について
- (4) 報告に対する質疑 (5分)



《第2部》

- (5) フリートーク (60分)

参加者と議員で10名程度のグループとなり、意見交換を行う。

「子育て支援について」をテーマとしたフリートーク20分とテーマ無しのフリートーク40分を目安とするが、時間配分については進行の状況により各グループで判断する。

《第3部》

- (6) まとめ (10分) (フリートーク記録者)
グループごとに出た意見を発表する。



- (7) 閉会 (司会)

2. 議会報告に対する質疑と回答

○国府公民館 10月25日(木)

Q: 斎場再整備について、再整備をする、しない、どちらか。

A: 再整備することは決まっている。現在は用地について検討している状況。一度、岩舟町三谷の南部清掃工場跡と選定したが、現市長が安全性について思慮し、不適地ではないかという考えにより、再検討している状況である。



Q: 土砂災害警戒区域はいつ、どういう形式で決定したのか。

A: 8月26日に県が発表したことを受け、8月31日に議会に報告された。

Q: 平井町にある現斎場は、土砂災害警戒区域ではないのか。

A: 現斎場にも土砂災害警戒区域はある。

Q: 斎場建設候補地の南部清掃工場跡でも土砂災害警戒区域への対策はできるのではないか。

A: それも含めて検討しているところである。

Q: 新斎場の候補地として、3か所提示されている。岩舟町以外の2か所については、危険区域はないのか。

A: 平井町にある現斎場も一部土砂災害警戒区域に指定されている。皆川地区に関しては、土砂災害警戒区域の指定はない。

Q: 警戒区域のないのは、皆川1か所しかない。そこに選定するしかない。争う理由が分からない。栃木市には都市計画審議会があり、斎場再整備検討委員会もある。そのどちらも結論が出ていると思うが、その結論に関してお答えいただきたい。

A: 斎場を建設するにあたって、都市計画審議会での決定が必要であるが、現在は決定に至っていない。斎場再整備検討委員会では、4候補地まで絞り込んだ。

Q: 8月末のあとも斎場再整備検討委員会では、南部清掃工場跡が良いという結論なのか。

A: 良いという訳ではなく、9月に委員会を開いたが、市長の話しを検討委員会に伝えただけであり、判断した訳ではない。

Q: 委員会では南部清掃工場跡が良いということか。

A: 概ねの意見はそのとおりである。

Q: 全員なのか。

A: 全員ではない。



Q:都市計画審議会では、昨年の12月に開かれているが、保留になってしまっている。都市計画審議会は結論を先延ばしにして、斎場再整備検討委員会は長きに渡り検討してきた。南部清掃工場跡が良いと議会も支持しているのか。

A:議会として決定している訳ではない。

○大平健康福祉センター 10月25日(木)

Q:斎場再整備について、これまで21回の検討委員会が開催されているが、検討委員に費やした費用はどれくらいになるのか。

A:斎場整備室職員の人件費としては、これまで1億6,600万円を費やしている。



Q:斎場事業は、国の政策を市が代行する事業であるが、斎場再整備事業に際し、国からの補助金はどれ位になるのか。

A:調査して回答する。

(要望)

- ・栃木市で計画している斎場の式場は、20名程度と聞いているが、小山市には120名の式場がある。式場の拡大検討を要望する。
- ・現斎場は築38年と古く老朽化が進んでいる。現在市長から再検討が示されているが、早急に施設整備を進行することを要望する。

○皆川公民館 10月26日(金)

Q:斎場再整備については知っている市民が少ない。市民に意見を聞く必要があるのではないか。

A:市民に対し周知していく。

Q:土砂災害警戒区域について、災害が起きても建物までは土砂はいかないという話を聞いたが、本当にそうなのか。

A:土砂災害警戒区域であることは想定している。安全性の確保は斎場のレイアウトなどにより対応できると聞いている。



Q:新斎場建設にあたり、地元三谷地区から8つくらい要望が出ているが、要望に応えるには多くの費用がかかるのではないかと聞いている。

A:どれくらい費用がかかるかはまだ議会に示されていない。

(意見)

- ・斎場再整備について、市長と議会が対立している場合は、安心安全な市政運営はできない。物事を決めるときは、きちんと議論してもらいたい。

⇒二元代表制の下で、市政をきちんとチェックしていくのが議会の役割である。

○西方公民館 10月26日(金)

Q: 西方住民有志から提出された陳情書が継続審査にならなかったのはなぜか。

A: 平井町にある現斎場は老朽化が進んでおり、一刻も早く再整備して欲しいという市民の声が挙がっていること、見直しがされると少なくとも3年は再整備が遅れてしまい、その間に使用できなくなってしまう懸念があるためである。



Q: 新斎場建設地を再検討した方が、不安に思っている住民は安心するのではないか。

A: 結果的にそのようなこともあるかもしれないが、陳情については大差で不採択となったことは事実なので、ご理解をいただきたいと思う。

Q: 現斎場とその周辺を活用した場合と南部清掃工場跡にした場合とで見積りを取り、議会でもう一度諮ったらどうか。

A: そのような要望が出たということは執行部に伝える。

(意見)

・斎場問題を政争の道具にしてはいけない。執行部と議会とで円滑にやってもらいたい。

○栃木文化会館 10月29日(月)

Q: 斎場再整備について、7年という時間をかけて検討されているのは、いかがなものか。市議会議員も改選があった。何年かけて整備するのか。タイムスケジュールを議会としても、案として示さなければいけないのではないか。

A: 当初は平成33年度に供用開始という予定であった。本来であれば、形が見えているはずであった。途中、三谷地区で反対されていた方もいたので、地区の住民の方々に丁寧に説明してきた。タイムスケジュールについては、責任を持って進めていきたいと思っている。



(意見)

・斎場再整備検討委員会の委員として、当初の供用開始は平成29年度である。遅れた原因は、三谷地区の了解を得るのに時間を要したためである。さらに、安全性を含め、この2年間検討してきたのが現状である。我々委員としては、一生懸命検討し、全員が賛成ではなかったが、最終的に南部清掃工場跡を選定した。市長が代わってもそのまま実行してほしかったと思っている。

(要望)

・現斎場もそのまま残すのか。あらためて新しい斎場を作るのか。状況によっては、西方地域や都賀地域の方々が平井町にある斎場が使えるか。斎場を建設するとなると1年2年でできるものではないと思う。そのようなことを含めて、市民に分かるように説明してもらいたい。

○藤岡公民館 10月29日(月)

Q:新斎場は今後の利用者の増加に対応できるのか。

A:現斎場は火葬炉5基が稼働しているが、新斎場では8基に増える予定であり、対応可能ということで計画が進んでいる。

Q:新斎場建設候補地である岩舟町三谷の南部清掃工場跡は土砂災害警戒区域に指定されているが、問題ないのか。

A:土砂災害警戒区域(イエローゾーン)は斎場建設について制限はない。土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)には制限があるが、必要な措置を講じることで建設は可能である。また、栃木県建築基準条例第6条にはがけ地に建築物を建築する場合の規定があるが、鉄筋コンクリート造では除外条項に該当するので問題ないと考えている。



Q:現斎場の借金はあるのか。

A:返済は済んでいると思う。

○都賀公民館 10月30日(火)

Q:新斎場を平井町の現斎場付近に建設する場合と岩舟町三谷の南部清掃工場跡に建設する場合の建設費の違いを聞きたい。

A:まだ、議会に対して金額の提示がされていない。

Q:斎場整備費は予算化されているのか。

A:斎場再整備事業実施手法の方針については、民間活力を導入して事業を実施する。PFI手法の導入について検討しているため、まだ予算化は示されていない。



Q:斎場再整備について、冬期における路面の凍結を心配しているようだが、雪国の状況を見れば対応できるのではないか。

A:可能であると思われる。

(要望)

・斎場再整備について、皆川地区から三谷地区に抜けるトンネルを掘り対応してほしい。費用については、その道路を県道に昇格させ、県の予算で対応すれば良いと考える。

(意見)

・新斎場は、市有地である南部清掃工場跡に建設すべきである。

○岩舟公民館 10月30日(火)

Q:斎場建設候補地である岩舟町三谷の南部清掃工場跡への不法投棄があったのか。

A:そのようなことは認識していない。



Q: 斎場再整備について、三谷地区住民の100%が建設に賛成している訳ではないが、「全員」が納得したという報道の根拠は何か。

A: 「全員」という言葉を確認して、後日返答する。

(要望)

- ・ 斎場再整備について、寺尾地区から提出された陳情書は一部の有志によるものなので、そこを留意してほしい。
- ・ 南部清掃工場跡の不法投棄の調査をしっかりとってほしい。

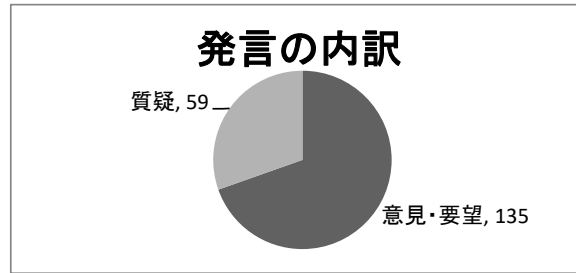
(意見)

- ・ 三谷地区の一部自治会で、無記名投票を行った結果、反対は少数であった。

3. フリートークの概要

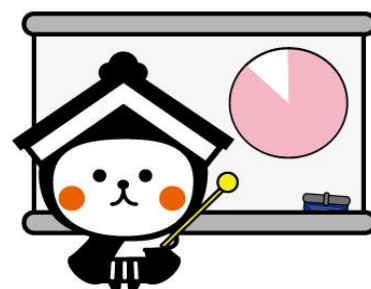
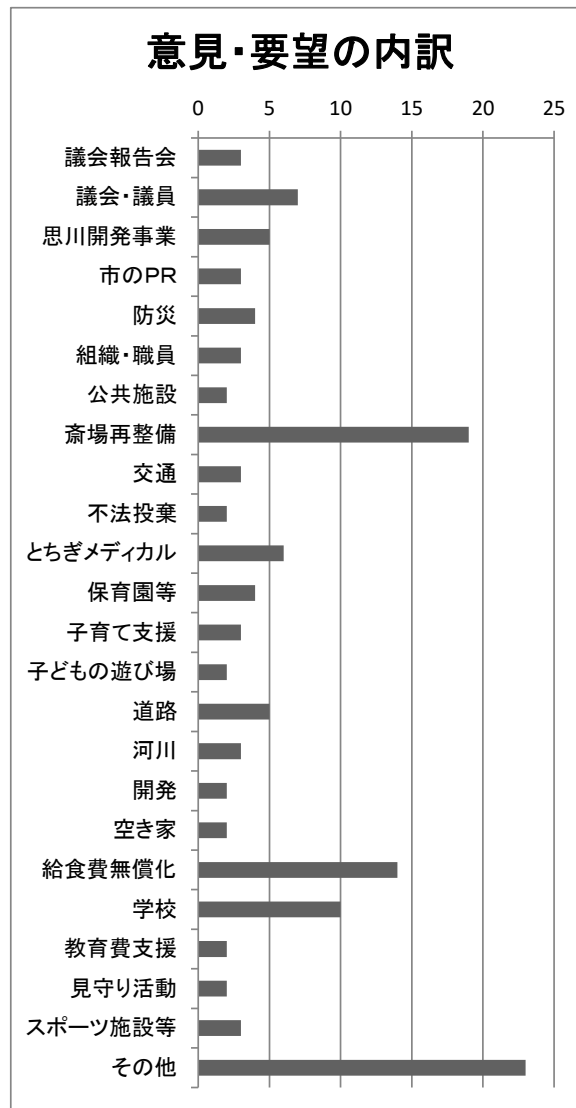
(1) 市民からの発言の内訳

意見・要望	135件
質疑	59件
計	194件



(2) 意見・要望の内訳

議会報告会	3件
議会・議員	7件
思川開発事業	5件
市のPR	3件
防災	4件
組織・職員	3件
公共施設	2件
斎場再整備	19件
交通	3件
不法投棄	2件
とちぎメディカル	6件
保育園等	4件
子育て支援	3件
子どもの遊び場	2件
道路	5件
河川	3件
開発	2件
空き家	2件
給食費無償化	14件
学校	10件
教育費支援	2件
見守り活動	2件
スポーツ施設等	3件
その他	23件



4. フリートークで出された意見、要望

(1) 議会に対する要望

①議会報告会について 3件

- ・9月議会だけでなく、6月議会と併せて報告を行ってほしい。
- ・議会報告会の参加者数が少ないのではないか。
- ・参加者の憶測による発言が多い。憶測での発言はいかがなものか。

②議会や議員について 7件

- ・予算が適正に使われているのかチェックするのが議会の仕事である。人口が減少しているのに、財政は減少していない。
- ・議員は市民の代表である意識を持って、もっと外に出て市民の声を聞いてほしい。
- ・水道ビジョンが策定されようとしている。その中で設備の老朽化で水道料金が20%上がるようである。議会は状況を判断して、市民のための判断をしてほしい。
- ・県の思川開発事業について、思川からの表流水を使用することには汚染の面で不安がある。また、水道料金の値上げも懸念されるので、議会として反対してほしい。※同様の意見・要望ほか1件
- ・市長マニフェストの給食費無償化について、議員としても後押ししてほしい。
- ・現市長は副市長を中心とした斎場再検討委員会を作っており、その答申が出ていないのに、なぜ、議会は早計に結論を出すのか。執行部とうまくやり、折り合いをつけるべきだ。

(2) 市執行部に対する要望

① 総合政策部

○ 思川開発事業について 5件

- ・南摩ダムには水がなく、ダム自体が問題である。無駄なダムを造って、その水を市民が買わされることになる。
- ・なぜ栃木市が思川の表流水を買う必要があるのか。
- ・栃木市の水道ビジョンにおいて、老朽管の交換等により20%程度の値上げが検討されていると聞いた。加えて、南摩ダムの水を県から購入することになれば、さらに値上げされると聞いている。考えてほしい。
- ・この問題を市政だよりで知った。地下水から河川水の利用を導入していくと、市の水が「不味くて、料金が高くなる」のではないだろうか。
- ・市は南摩ダムの水を買おうとしているが、料金も上がるし、浄化施設の設置などかなりの費用がかかるので、断固として阻止してほしい。

○ 市のPRについて 3件

- ・栃木市は子育てがしやすいということをもっとアピールしてほしい。
- ・栃木市には小規模特認校もあるので、子育てしやすい街をキャッチフレーズにPRをし、移住者を増やす政策を実施していくべきである。
- ・若い人が住みやすい街、よそから移住した人も「住みやすい田舎」ということを売りにして、もっと人口増を図ってほしい。

○ その他 5件

- ・遊水地にイノシシが70頭くらいいるとのことなので、対策を考えてほしい。
- ・栃木山100周年相撲を栃木市でやってほしい。
- ・快速電車を復活させ、東京と栃木市の時間の距離を短くすべきではないか。
- ・民間デベロッパーと市職員、議員とで話し合っって民間目線で栃木市の将来像を描いてもらいたい。
- ・婚活サポートをしっかりとってほしい。

② 総務部

○ 防災について 4件

- ・ハザードマップの見直しをする際に、避難所の見直しもしてほしい。
- ・自主防災組織を設立した後、補助金2万円では何もできない。
- ・デマンドタクシーの利用を、災害時に避難困難者に活用できないか。
- ・西前原排水機場の安全性について、以前の豪雨災害時に故障している。

○ 組織・職員について 3件

- ・職員削減が進んでいないのではないか。市の職員の削減を行うことにより、予算の配分を変えて福祉の充実を図るべき。

- ・合併後、人件費の削減が進んでいない。
- ・給食費無償化の財源は職員の削減により捻出できる。合併時に組織改革を行い、職員数を削減するべきだった。

○その他 1件

- ・ハード面での整備よりソフト面を充実してほしい。その財源確保策として、公共事業の入札を厳しくしてはどうか。

③財務部

○公共施設について 2件

- ・合併後、公共施設の削減が進んでいない。
- ・栃木市は旧栃木市の時から、借地が多すぎると思う。減らすべきではないか。

○その他 1件

- ・都市計画税を払っている人は農機具が購入できない。公平にするためには都市計画税を廃止して市民税を上げたら良いのではないか。

④生活環境部

○斎場再整備について 19件

- ・早急に建設してほしい。※同様の意見・要望ほか6件
- ・選定場所はバランスを欠いている。※同様の意見・要望ほか1件
- ・岩舟に建設する斎場の規模を小さくして、現斎場との2本立てにすれば問題は解決すると思うがいかがか。
- ・斎場再整備検討委員会の報告が地域住民に対してされていない。地域の代表者が誰なのかも知らない。住民にもっと分かりやすく説明し、意見を聞くべきである。
- ・市長が変わったのだから新斎場建設地を見直すべきだ。
- ・なぜ岩舟地域の南部清掃工場跡に決定したのか、評価の過程が見えてこない。評価表を住民に示した上で、説明してほしい。
- ・あまりにも周りが発展している場所は、斎場建設地にそぐわない。その点、現斎場周辺は開発されすぎているように感じる。見直しを提案するのであれば、ビジョンを示すべきである。
- ・建設費を早く市民に提示すべきである。
- ・皆川地区から岩舟町三谷地区にトンネルを掘り対応したらどうかと思う。その際、県道に昇格させて、県の予算で対応したら良いと考える。
- ・南部清掃工場跡に斎場を建設するならば、残土対策をしっかりとやって欲しい。対策がされないなら反対である。
- ・南部清掃工場跡周辺の道路は農道が多いため、道が狭く車のすれ違いができない場所もある。このような道路を整備すれば多くの費用がかかると思うので、よく考えた方が

良い。

- ・南部清掃工場跡の入口は急傾斜かつカーブしており危険である。信号機の設置や道路改良が必要と思う。

○交通について 3件

- ・とちぎメディカルセンター北側の五差路は危険である。事故も多発しているので、信号機を設置してほしい。
- ・ふれあいバスの乗客が少ない。
- ・ふれあいバスを曲ヶ島にも通るようにしてほしい。

○不法投棄について 2件

- ・大平町西山田の業者の埋立てについて、現在 500 m²以下の埋立ては届出のみで可だが、市としても条例を制定し、小規模なものに対してもルールを変えて対処すべきである。
- ・不法投棄問題について、ドライブレコーダーを活用した監視体制を整備したらどうか。市民に協力者となってもらい、警察との連携のもと実施すれば効果が上がるのではないかな。

○その他 2件

- ・国保税について、国保税が高すぎるので、下げてほしい。
- ・西水代集会所の畳が老朽化しているので修繕してほしい。

⑤保健福祉部

○とちぎメディカルセンターについて 6件

- ・とちぎメディカルセンターに産科がないので将来的に心配である。
- ・栃木市には産婦人科がない。子育ての前に産むところを整備してほしい。
- ・独自のアンケートでは産科の設置を望む声が多いので、早急に設置してほしい。
- ・産科が1か所しかないのに、出生率を上げるのは難しいのではないかな。
- ・出産に関して女性が安心して産める医療を整備してほしい。
- ・とちぎメディカルセンターの医療スタッフについて、多くの患者を診察しなければならない時間的制約があるので、細かな診察ができないという話を聞いている。

○その他 6件

- ・視覚障がい者の保育園、学校について、市内には受け入れて貰える場所がない。盲学校は県内には宇都宮市にしかなく、片道1時間かかってしまう。視覚障がい者に対応できる特別支援学級を市内にも整備してほしい。
- ・近隣の病院で出産しなければならないので、交通費補助を考えてあげるべきである。
- ・藤岡地域には病院(医者)が少ない。緊急の場合、とちぎメディカルセンターでは時間がかかる。どうにかならないかな。
- ・民生児童委員、母子保健推進員が縦割りである。家庭と繋がっていない。
- ・民間企業にAEDを設置いただき、近隣で必要になった際に貸し出しができるようにし

たらどうか。

- ・渡良瀬の里を宿泊施設として利用できるようにしてほしい。

⑥こども未来部

○保育園等について 4件

- ・保育園・幼稚園への補助金の内容をしっかり審査してほしい。
- ・保育園や学童保育の時間延長を検討してほしい。
- ・待機児童を減らしてほしい。
- ・待機児童問題について、本当に保育園等がないのか。昔と比べて、子育て支援は充実しており、わがままな面もあるのではないか。また、家族や地域との繋がりが希薄なことも原因であると思う。

○子育て支援について 3件

- ・子育て支援について色々と事業を行っているが、重要なことは支援を必要としている人がどれくらいの支援を受けられているのか、市が支援の必要がある人を把握するためにどのような体制をとっているのかということである。母子保健推進員による声掛けなど、支援体制を充実させるべきである。
- ・子育ての環境が大きく変わってきているのではないか。子どもの医療費の負担はほとんどなくなっているが、非正規雇用が増えており、今後も子育て支援をしていくべきである。
- ・親同士のコミュニケーションが取れない親がいて、それが子どもにも影響を与えている。そのような親への支援が必要である。

○子どもの遊び場整備について 2件

- ・子どもの遊び場建設の予定地は藤岡から遠い。藤岡にも同様の施設はできないか。
- ・子どもの遊び場の必要性は低い。他の子育て支援にお金をかけるべきである。

⑦産業振興部

- ・気球は維持費もかかるし、耐用年数は3年と聞いている。活用しないともったいないので、気球を活用した観光について検討してほしい。
- ・観光農園いわふねの花野果ひろばについて、土日午後買いものに行くと欠品が多く、農産物の補充ができていない。

⑧建設部

○道路について 5件

- ・生活道路は防塵舗装が多く、傷みが激しい箇所が多い。補修工事と本舗装への切り替えをしてほしい。

- ・舗装面のデコボコが多いので、修繕してほしい。
- ・下皆川の通学路に、歩行者ゾーンと自転車ゾーンの色分けをしてほしい。
- ・北武井地内、寿橋の通学路にガードレールを設置してほしい。
- ・川連の道路を補修してほしい。

○河川について 3件

- ・思川は一級河川であるが、整備が行き届いていない。イノシシやまむしもでている。アカシアの木を住处にしているようなので、関係機関と連携し対策してほしい。
- ・鳥砂川の河床ざらいをしっかりとやってほしい。
- ・氾濫防止のため、巴波川の川底を30cm掘り、砂利を取ってほしい。できない箇所があるとのことだが、やれるところからやってほしい。

⑨都市整備部

○開発について 2件

- ・栃木市には大規模な住宅団地がない。人口増には必要ではないか。
- ・市街化調整区域において、50戸連たんによる開発が進んでいる。将来的にインフラにかかる経費は市で負担することになるので考えた方が良い。

○空き家について 2件

- ・空きアパートを市で借上げ市営住宅として利用するなどの活用を考えてみてはどうか。
- ・田舎の空き家が増えてきている。解体費用も上がってきているし、解体すると固定資産税が高くなることも原因の一つだと思う。

⑩上下水道局

- ・下水道事業は地域によって不要である。予算がなく遅々として進まない下水道事業は高額 of 受益者負担金が求められることから、地域によっては必ずしも必要とされていない。
- ・空冷川について、約50年前は地下水が湧いていたが、今は湧いていないところがない。地下水だけの利用は難しいと思う。水対策をしっかりとやってほしい。
- ・三毳地区の排水対策をしっかりとやってほしい。

⑪教育部

○給食費無償化について 14件

- ・実施するべきである。(市長公約である、少しでも負担軽減を図るべきである、段階的でも良いので早く実施すべきである) ※同様の意見・要望ほか2件
- ・実施するべきではない。(現在も生活保護や準要保護の家庭は無料である、子どもの食事は親の責任である、無償化は少子化対策とは言えない、地産地消で安心安全な

給食であれば有料でも良い) ※同様の意見・要望ほか7件

- ・所得制限を設けるべきである。 ※同様の意見ほか1件
- ・給食費無償化を市長はやると言っているが見通しはあるのか。財政の健全化を言っているが相反することを主張しているように思われる。

○学校について 10件

- ・不登校の子がより来やすい雰囲気への適応指導教室を整備してほしい。高根沢町の「ひよこの家」は町が建物を整備し、民間が運営しており、来やすい雰囲気づくりができている。
- ・中学校の部活動に対して、先生以外の専門知識のある方をお願いできないか。
- ・教育長などに学校をまわってもらい、学校施設の老朽化の現状や直接子どもに意見を聞くなど学校の実態調査を行ってほしい。教員をサポートできるような体制にすべきと思う。
- ・教育委員の学校訪問ができているか。学校の実態調査の充実を望む。
- ・いじめを無くし、子ども達が安心して学校に行ける状況を作してほしい。
- ・通学路整備を始め、安心して学校に通わせることができる仕組みを整えてほしい。
- ・吹上小学校給食共同調理場の建て替えが止まっていて困っているようなので、早急に対応をお願いしたい。
- ・静和小学校の給食に使う食器洗浄機が壊れているので、すぐ直してほしい。
- ・学校のトイレにウォッシュレットを付けてほしい。
- ・学校教育に蛭の飼育を取り入れてはどうか。子どもの情操教育に、各地域で蛭を飼育して、子ども達に日本人としての心を育てていただきたいと思う。

○教育費の支援について 2件

- ・子育て支援の補助制度について、就学援助制度があるが利用率が少ない。学校と民生委員にまかせすぎであり、全員に配布し、広く申請できるようにすべき。
- ・子育て支援策として、教育費にお金をかけている家庭が多いので、18歳まで教育支援をしてほしい。

○見守り活動について 2件

- ・地域の子どもの見守り活動に限界が来ている。市で対策を考えてもらいたい。
- ・教員は忙しいので、地域で子ども達の見守りをしてほしい。

⑫生涯学習部

○スポーツ施設・公民館等について 3件

- ・大平町には素晴らしいグラウンドゴルフ場があるので、旧栃木市内にも専用のグラウンドゴルフ場を設置してほしい。
- ・静和公民館はグラウンドゴルフ場があるため、外にトイレを設置してほしい。また、グラウンドゴルフ場の敷地を拡張してほしい。
- ・ふれあいトークでも提案・要望を行ったが、みかも公民館の修繕をしてほしい。

○その他 3件

- ・現在、本市では大きなイベントが無い。マラソンや自転車等のイベントを開催したらどうか。
- ・栃木図書館の運営・設計について、司書を雇わなくなってから学力が低下してきた。また、図書館中央の螺旋階段は設計ミスであり、近くの図書館に埃がかぶりやすくなっている衛生上良くない。返却ボックスは本の小口が傷んでしまうので、改善してほしい。
- ・栃木市民読書の日を制定するなど、もっと本を読むよう対策をとってほしい。

5. 常任委員会意見交換会における意見等

(1) 総務常任委員会 11月13日(火) (栃木市役所 全員協議会室)

相手: 自主防災組織

◇テーマ「自主防災組織の活動状況と課題について」

- ・空き家が多いため、最近の3年間は、空き家対策をテーマに活動しており、不法侵入者や焚火の取り締まりなどを実施した。
- ・自主防災組織による防犯活動により、町内住民との信頼関係が築けており、いざという時に組織の言うことを理解してくれるため、防災活動を円滑に行うことができている。
- ・自治会の避難場所は公民館であることを様々なところでお知らせしているが、なかなか理解していただけないという課題がある。
- ・避難場所である公民館の収容人数には限界があるため、近隣の施設の協力を得ることとしたが、鍵を借りに行かないとならないため、施設の開閉に時間がかかる点が課題である。
- ・防災活動を通して、自治会内の大人と子ども達の繋がりができることを確認できた。
- ・より実践的な防災訓練を企画したところ、朝早くからそのようなことを実施するのは無理だという意見があり、計画倒れになった時もあった。試行錯誤をしながら徐々に修正を重ね、防災活動を継続している状況である。
- ・実際に災害が起きたときに、防災訓練が本当に活かされるかどうかについては正直不透明である。訓練を実施しても緊張感などは無いように思われる。しかしながら、災害のための防災訓練は大切なことという意識付けはできているのではないか。
- ・災害は広範囲にわたることが多いので、小さな自治会では、町内を越えた訓練、協力体制の必要性を感じている。
- ・自主防災組織立ち上げの際には、役員の選出が課題の一つとなるが、まずは、自治会役員が頑張るしかないと考えている。自治会長の思いが強ければ皆が協力してくれるのではないか。また、実際に災害を経験した自治会と、そうでない自治会では、設立への意気込みに差が生じてしまうこともあると思う。
- ・自治会に加入していない方の避難訓練等への参加や声掛けについては、行事があるたびに声掛けなどを行っているが反応が薄い状況である。引き続き実施していきたい。
- ・防災活動の際に、火の用心の際の拍子木を使用することは良いアイデアだと思う。防災活動を行っているということを参加していない住民に伝えられると思う。
- ・災害時には水道が断水する恐れがあるため、自治会でポンプアップ井戸を整備する取組みは大



変良いものであるが、いざという時に使用できないということがないよう、維持管理をどのように行っていくかも課題である。

(2) 民生常任委員会 11月1日(木) (栃木市役所 全員協議会室)

相手:障がい者団体代表

◇テーマ「障がい者差別解消について」

- ・障害者差別解消法など、法律があっても実際社会の中でどのように活かされているかは不透明と感じる。
- ・障がい者差別をしない心を作らない限り差別はなくなるらない。
- ・障がい者自体や障がい者の心を健全者に理解してもらうため、様々な事業活動をしている。
- ・法や条例の制定はスタートライン。一人ひとりが差別をなくしていこうと取り組むことが大切。
- ・耳の聞こえない高齢者が増えており、そういった方は孤立しやすい。耳の聞こえない方のための施設を作りたい。
- ・条例の制定で差別が解消されると良い。より良い条例に改訂できるようなものにしてほしい。
- ・団体の会員が高齢化している。人数も減ってきている。市から助言をいただきたい。
- ・身近な人でも障がいを理解していない現実がある。
- ・市役所新庁舎ができたとき、立体駐車場から車いすが入れなかった。今も庁舎の軒先に車止めがなく困っている。新しく施設をつくるときは、障がい者の意見も聞く機会をもってほしい。
- ・多くの自治体で福祉バスを持っている。本市にも導入していただくとありがたい。
- ・ヘルプステーションのような、いつでもおむつ交換等が可能な場所を市内に設けてもらいたい。
- ・市は身体障がい者を継続的に雇用してきた。身体障がい者以外の障がい者の雇用も考えてほしい。障がい者の中で差別があってはならない。
- ・重量のある電動車いすに対応した福祉バス導入を検討してほしい。
- ・学校でも障がいを持った子どもに配慮してほしい。
- ・デマンドタクシー、蔵タクは需要が多い。民間に委託して365日運用している自治体はたくさんある。ぜひ、考えてほしい。公共交通と障がい者の交通機関利用を別に考えてほしい。



(3) 産業教育常任委員会 11月28日(水) (栃木市役所 議会会議室)

相手:「蔵の街とちぎビジネスプランコンテスト2017」受賞者

◇テーマ「栃木市の創業支援について」

○空き店舗活用促進事業補助金について

- ・補助の対象地域がもっと広がると良いと思った。
- ・専門家の相談については、どういう人に相談できるのかが重要だと思う。中小企業診断士では平均的な数値を示すだけになる。同じ仕事をしている人をつないでくれる窓口があった方が良い。
- ・税理士や中小企業診断士だけでなく、数字的なこと以外のもっと幅広いアドバイスをもらえる支援があったら良いと思う。



○空き物件の活用について

- ・栃木市でお店をやりたいと思っている人から「栃木市は物件が借りられない」という話をよく聞く。その割には使ってなさそうな物件がたくさんあるので、空き物件を借りやすくしてもらえると支援があれば、新規出店が加速していくと思う。
- ・嘉右衛門町地区の空いている所を貸したい、借りたいがどうしたらいいか分からないという声を聞くので、お互いのマッチングが必要になってくると感じた。
- ・空き家バンクの物件は売買が多い。賃貸物件の情報も増えれば、開業する物件の窓口が広がる。

○創業支援策について

- ・働く人材が少ないので、小中学生よりも働く直前の高校生などに職場体験の機会を設けてもらいたい。
- ・市内には大学生があまりいない。平日の昼間に10代後半から20代前半のお客はほとんど見かけない。大きな話になってしまうが、大学や専門学校を誘致するとか、その辺の世代が地元に残れる仕組みがあると集客的にも働く人材としてもありがたい。
- ・今の事業が軌道にのり、次の事業を始める時の道筋を分かりやすくしてもらおうことやクラウドファンディングのバックアップをいただくとありがたい。お金があればもっとやりたいこともあるので、何かは分からないが、何らかの支援があると良い。

○ビジネスプランコンテストについて

- ・応募資格について、開業前と開業後を別枠にすれば、開業前の人に開業後の姿が見てもらえ、勉強になると思った。
- ・コンテスト受賞者には、広報紙でお店の紹介をしてもらえるような副賞があると良い宣伝効果になると思う。
- ・応募資格の「今後1年以内に栃木市内において創業を目指している方」というしぼりは厳しいと思う。
- ・受賞者へのフィードバックがなかったので、自分のどこが良くて、どこを評価してもらえたかの意見

がもらえたらもっと良かった。

- ・若い世代の起業にもつながるので、高校生や大学生などの世代を対象としたコンテストを開催しても良いのでは。

(4) 建設常任委員会 11月2日(金)(栃木市役所 議会会議室)

相手: 栃木県宅地建物取引業協会(県南支部)

◇テーマ「これからの本市における移住・定住に関わる空き家対策について」

- ・空き家対策をはじめとした本市の移住・定住政策は日本一となった。これに関しては宅建協会と住宅課職員による努力の結晶と言えるので、ぜひ、市として顕彰してほしい。
- ・本紙の補助金が充実しているから空き家バンクの実績が全国1位になったと考える。ただし、移住補助金について、現在は市街化区域に限定されているので、調整区域にも対応していただきたい。また、家財の処分費用について、自分でクリーンプラザに搬入している人もいるので、こちらについても補助金を支給していただきたい。解体費の補助金50万円はよほど古い住宅でないと適用にならないため、ハードルをもう少し緩くしていただきたい。
- ・お年寄りに対応した紙媒体への露出も増やしていったらどうかと考えている。
- ・イベント会場でブースを作って相談会を実施してはどうかと考えている。
- ・市長が代っても今までどおり補助金を出してもらいたい。
- ・耐震診断について、昭和56年6月の縛りを撤廃してもらいたい。それ以降の物件でも耐震化がされていないケースがある。無料相談の中でマイナスの、負の不動産を持っている方から、市で受け取ってもらえないだろうかと相談があった。これから増えてくると思うので、解決する方法を一緒に考えていきたい。
- ・300万円から500万円という一般の市場では流通しないものを取り扱っているのに、100%の成約率はあり得ないことについてはご理解をいただきたい。



6. TOCHICO☆サロン特別版 議員とのおしゃべり会における意見等

フリートークにおける意見、要望、回答

○グループ① 「乳幼児の子育てについて」

Q：「とちぎ笑顔つぎつぎカード」の店舗の位置や特典が分かるマップを作ってほしい。足利市ではカードが使えるお店のマップがあったので、栃木市版もを作ってほしい。

A：要望する。

要：イオンでは「孫カード」というものがある。孫のために物を購入する際に特典が受けられるカードがあるので、「とちぎ笑顔つぎつぎカード」の孫カードを作ってほしい。※1

※1 「とちぎ笑顔つぎつぎカード」の交付は各世帯1枚。18歳未満の子どもと同居する家族に限り利用できるため、祖父母も利用できる。

要：広報とちぎに掲載されている「子育て広場」の情報をホームページにも載せてほしい。

※2

※2 ホームページに広報とちぎ（全ページ）が掲載されている。

Q：栃木市のホームページは分かりにくい。例えば、「栃木市 子育て」、「小山市 子育て」で検索して比較した場合、小山市は「おやまっ子開運子育てナビ」があり、クリックすると小山市の子育て支援情報が大きなアイコンで見やすい。栃木市のホームページは知りたい情報までにたどりつくのが大変である。

A：子育てのページが見やすくなるよう要望する。

Q：栃木市の広報とちぎをいろいろな場所に置いてほしい。アパートに住んでいるが、広報紙が入らない。

A：自治会に加入すると回覧で届くようになるので、アパートの大家さんに相談し、自治会加入の申込み手続きをしてもらいたい。

要：広報紙がコンビニエンスストア、スーパー等にも設置されていることを、市民に分かるよう周知してもらいたい。

意：ホームページにどこに置いてあるか、載っているとよい。※3



※3 広報とちぎの設置場所については、ホームページに掲載されている。

Q：保育園への入園の確約がないと、仕事に復帰できない。また、仕事を探すこともできない。保育園入園条件の制度を変えてほしい。

A：要望する。

Q：産婦人科が栃木市内に一箇所しかないので、診察の待ち時間が長い。産婦人科を増やしてほしい。

A：要望する。

意：子どもを連れて休日夜間診療に行った際、小児科の先生が不在で診察ができないと判断されると大病院（総合病院）に行くよう指示され、自分で、独協医大や自治医大に電話をしてから受診したことがある。足利市に住んでいた時、足利赤十字病院の敷地内に休日夜間診療所があり、小児科の先生が常駐していた。※4

※4 足利市の夜間休日診療では、小児科医が常駐している訳ではなく、内科医、小児科医が当番制で診察をしている。

要：野焼きの被害がある。洗濯物を外に干したまま外出できない。子どもが外で遊んでいる時、野焼きの煙がひどくなると室内に避難することもある。以前、野焼き違法との回覧がまわったが、その後も野焼きをやめないなので対策を取ってほしい。

○グループ② 「小学生以上の子育てについて」

Q：軽度発達障がいがあるが、小学校入学時に通常学級との判定となり、親の目から見て不安もあったため、支援学級に変更してもらった。その後、成長するとともに状態が良くなったので、普通学級に変更をお願いしたところ、途中で変更できないと言われた。もっと柔軟に対応してほしい。

A：強く要望する。



意：こどもサポートセンターで栃木特別支援学校の葛西先生の講話を聞く機会があった。埼玉県には支援学校と普通学校の両方に籍がある「支援籍」という制度があるが、栃木県にはないという話を聞いた。現在は柔軟に対応できることが求められていると感じる。

意：小学校に行ってから不登校になった子どもがいる。小さい時に育てにくいと感じてはいたが、健診や幼稚園でも特に判定されることはなかった。大きくなって、検査を受け、発達障がいであることが分かったが、中学生で思春期ということもあり、本人への告知も難しいと感じている。そのような場合、どこに相談したらよいのか分からずに悩んだ。

A：集団健診で発見するのは大変難しい。脳の発達の一部の欠落によるもので、全てがで

きない訳ではなく、少しの分野ができないということなので、なかなか判定しにくいのが現状である。「すこやか相談室」ができたが、その利用はいかがか。

意：「すこやか相談室」には、一度相談したきり。

意：幼稚園のことを考えて保育課に相談したが、保育園は市役所、幼稚園は私立なので、幼稚園と話し合うように説明された。

意：視覚障がいを持つ子どもがいる。キッズホームとちぎの先生に相談し、栃木市内の幼稚園で受け入れてもらえることが可能となった。他の幼稚園にも相談したが、「1歳レベル」、「参加できる行事はよいが、参加できない行事には休んでもらう。」等、いろいろな事を言われた。

意：発達障がいでも同じようなことを言われる方も多い。

要：相談ごとがあった時に、相談しやすい機関があればよいと思う。悩みや不安も持たずに子育てできるということが、子育てしやすい街だと思う。普通に学校に行っている子ども学校には行きづらい子ども皆が幸せになれることが、子育てしやすい街になると思うので、行政には頑張ってもらいたい。

要：栃木市は「インクルーシブ教育」を進めていける規模だと思うので、積極的に推進し、先進的な街になってほしい。

A：制度的には、幼稚園も認定こども園も障がい児を受け入れた時には、先生を確保することが条件にある。

Q：視覚障がいに限らず、他の障がいを持つ子ども保育園などに入れなかったという話をよく聞く。

意：本来であれば、障がいを持つ子ども他の子と同じように手続きを済ませば、入園できるようになることが理想だと思う。

A：そういう点で手厚く対応できる栃木市になることを目指している。

意：不登校の小学校5年生の子どもがいる。小学6年生になった時、先生から修学旅行をどうするか、中学校の説明会はどうするかと聞かれる場面があり不安になる。他のお母さんも同じような場面で不安になるという話を聞く。栃木市内に通えそうな場所があれば、通わせたいと思うので、選択肢があるとよい。以前、ふれあいトークで市長や教育長と話す機会があり、「学校に行かせることがゴールではない。」というお話を伺って、すごく安心した。その言葉に救われたが、平日に子どもと外に出かけると「学校お休みなのか？」と聞かれてしまう。いろいろな学びの場、その子どもに合う居場所、元気に通える場所があれば良いと思う。行政の窓口は固いイメージで行きづらいところがあり、どこに相談に行けばよいのか分からない。

A：要望する。

要：栃木市で、フリースクールを経営しているが、①情報の公開（提供）、②ネットワークの強化、③財政支援の三つの要望がある。

①行政が持っている情報と当事者やご家族が持っている情報があるが、行政が出せる情報は限られており、当事者が必要とする情報は民間や保護者が持っている場合が多い。インターネットで検索すると様々な都道府県、市町村で民間のフリースクールや親の会に関する情報の公開やリーフレットを配布している行政もあるので、栃木市においても情報の提供をお願いしたい。

②栃木市の親の会とつながりを持っているので、親の会と連携して、教育分野に反映させたいと思っても、教育行政と話す機会がない。「栃木市いじめ防止対策推進条例」に「いじめ問題対策連絡協議会」の設置が規定されている。学校になじめない子には、身体の障がいや発達障がいの子が多いので、協議会において、学校で改善できない部分を民間と連携するなど、ネットワークを強化してほしい。

③財政支援の面で、条例に「財政上の措置」と規定されている。例えば、札幌市では「フリースクール等民間施設事業費補助制度」があるので、栃木市においても、財政援助制度を確立してほしい。

A：要望する。

○意見・要望（意見・要望用紙にて提出いただいた内容）

要：障がいを持つ相談窓口が少なく分かりにくい。子どもの相談や親として聞いてほしい事を相談する窓口があればよい。1人で悩みを抱え、1人で解決していくのは、孤独で不安になる。母の笑顔は直接子どもの笑顔につながると思う。子どもへの手厚いサポートも必要だと思うが、母親等への心のサポートをしてもらえる窓口を増やしてほしい。

要：視覚障がい児を育てており、市内の小学校に通うことを望んでいる。特別な施設を造ってほしい訳ではなく、現在市内にある学校を利用して、視覚障がい児の就学について、積極的に対応してもらいたい。

要：学校現場では、先生も多忙で一生懸命なのは、よく分かる。多様な子どもたちを受け入れる時、先生の数が圧倒的に不足している。学校体制も根本から見直す時期がきていると感じる。先生は、勉強熱心な方が多いが、多忙のため、十分勉強する時間がないと思う。不登校や発達障がいについて保護者の訴えを理解してもらうのに苦労し、保護者側は疲れてしまう。先生方に余裕がないと安心して子どもたちに指導できないと思う。ぜひ、先生方の声も聞き入れ、市民全体で子どもたちを見守る体制を作り上げていただきたい。

要：適応指導教室が栃木市には数か所ある。教室によっては、部屋が多く用意されていたり、臨床心理士の先生がいたり、調理室があつたりと良いところがある。しかし、現場では先生によって指導のあり方に違いがある。多様な学びが今は推進されているが、適応教

室では未だに学校復帰を目的とした指導をしている先生がいることが残念である。たくさんさんの教室があるので、指導内容を工夫し、学校に行けない子が適応教室に行きやすくなるような工夫をお願いしたい。先生も不登校や発達障がいについて、もっと学んでほしい。

要：不登校になった時、学校との意識のズレを感じた。学校は学校に戻したいという気持ちが強く、母親は子どもと学校との間に入って辛くなったことがある。子どもを一緒に育てていくはずの先生とのすり合わせに時間を要した。栃木市は「子育てしやすい街」と称されており、実際に子育てしやすいと思う部分もある。ぜひ、「多様な学び」の先進的な市として柔軟に対応し、民間と連携した取り組みをしてほしい。子どもの成長は早いので、早急に進めてもらいたい。

要：子どもが学校に行かない選択をした事には、1人ひとり違う理由がある。特に理由はなく気質や体調が原因で行けない場合もある。学びの場が学校だけではないこと、家でもフリースクールでも全く問題はないという考えを市全体（学校・行政・保護者）で持てる街づくりをしてほしい。

要：教育行政に市内のフリースクールや親の会の声や情報を発信し、市民との協働による学校づくり、教育づくりをぜひ実現してほしい。

意：学校の先生によって対応に違いがあるので、共通理解を求める。

要：学校に行けなかった時期があっても、大人になった時に「あの時期があって良かった」、「栃木市で育って良かった。」と思えるよう、自由に選べる自由な環境づくりを作してほしい。栃木市が先進的モデルとして取り組んでももらいたい。

要：学校に通学せず、家庭で学習を行う「ホームスクリーング」も多様な学びの一つとして、定着してほしい。

要：家の都合（兄弟がいたり介護、仕事など）で送迎ができない場合も多くあるため、フリースクール、学区外、市外等自宅外に通う場合、市で負担（利用料金）する制度を設けてほしい。

要：不登校やフリースクールに通う子どもたちや保護者に対し、安心して子育てできるように栃木市には学悠館高校があることを周知してほしい。

要：学校の宿題の出し方について、先生によって量のバラツキがあり、宿題をやらせようとする親もストレスを感じている。宿題が多いと子どもが勉強嫌いになってしまうという話も聞くので、改善策がないか、検討してほしい。

要：ふれあいバスを利用して、学校・学童保育・習い事との連携を図ってほしい。

意：栃木市を文教地区に。教育で街おこしができたらよいと思う。

意：保護者の笑顔が明るい未来を担う子育てに何よりも大切なことだと思う。子どもも保護者も笑顔になれる支援が必要だと思う。ハード面よりソフト面で栃木市の教育について情報を共有し、民間の活動と連携していくことで、栃木市が教育熱心で、子ども1人ひとりの将来を真剣に考えている街という認識になり、他地域からの移住者が増えると良い。

要：子育てに悩んだときや不登校になった時に TOCHICO 日和と行政とで連携し、情報誌を作成して、市民に周知してほしい。

意：個人的には学校給食費無料化より、こども手当や医療費助成の拡大(高校3年生まで)を希望する。

要：子育てしやすい街というのは、悩みを持ったとき、すぐに相談できる場所があり、安心できることだと思う。行政、市議会議員、民間がネットワークを拡大し、共有していくことで、予算をかけなくてもできる事業が多くあると思う。今後も子育て世代と市議会議員との意見交換会の場を設けてほしい。

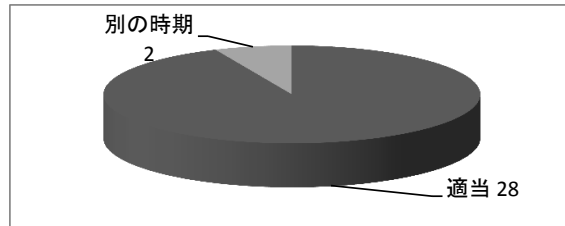


7. アンケート結果

(1) 議員アンケート

1) 開催時期について

1	適当	28	93%
2	別の時期	2	7%
	計	30	100%



「適当」の意見

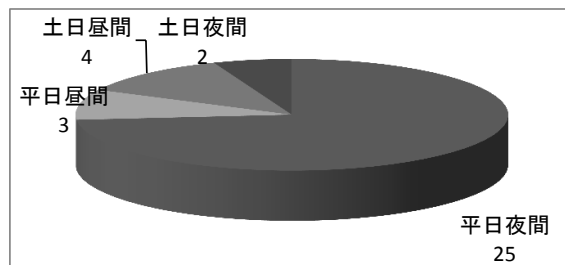
- ・行政の施策と比較して議会の動きを知っていただける方が良い。
- ・開催時期については、現状で可と思う。

「別の時期がよい」の意見

- ・ふれあいトーク終了後にすると、どうしても10月末～11月中旬になってしまい、日没も早くなる。予算確定後速やかに実施しても良いのではないのでしょうか。
- ・今後の報告内容を議会主体(今までよりも)に。
- ・ふれあいトークを意識せず、年4回定例会前月に開催。

2) 開催曜日・時間帯について

1	平日夜間	25	74%
2	平日昼間	3	9%
3	土日昼間	4	12%
4	土日夜間	2	6%
	計	34	100%



「平日夜間」の意見

- ・今回のような平日夕方の時間帯で良いと思います。
- ・基本的には平日夜間である。今回実施した日中の評価がどうであったか分からないが、いろいろチャレンジしても良いのでは。(土日夜間など)
- ・市民参加者の意見は確認していないので分からないが、議会としては平日夜間で良いと感じる。ただし、この時間帯での参加者はリピーターの方が多く、土日等の検討も今後必要と考える。

「土日昼間」の意見

- ・平日夜だけでなく、いろいろな時間帯での来場者の勧誘を試みたい。

「土日夜間」の意見

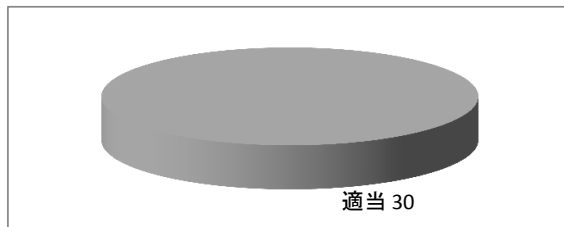
- ・相変わらず来場者は年配の方々が多く、幅広い年代層の参加を求めらるならば、参加しやすい開催日時の模索をすべきと考える。

その他の意見

- ・栃木文化会館での婦人出席が多く感じられました。昼間の開催も良いのでは、と感じました。
- ・栃木文化会館で平日昼間やれて良かった。昼間なら来られる方もいる。
- ・議員とのおしゃべり会の開催は良かった。(土曜午前中)
- ・平日昼間は1か所～2か所が良い。
- ・一度土日夜間で実施してはどうか。

3) 会議時間(90分間)について

1	長い	0	0%
2	適当	30	100%
3	短い	0	0%
計	計	30	100%

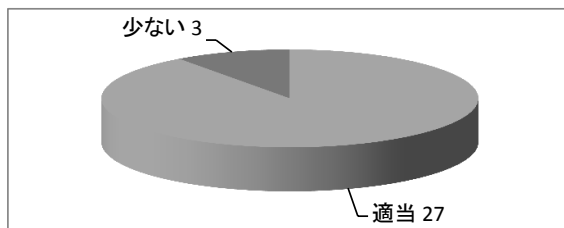


「適当」の意見

- ・90分間は適当な時間だと思う。それ以上だと会場内がだれてしまうのではないかな。
- ・適当と思うが、フリートークはもう少し時間がほしいと感じる。
- ・報告と質疑応答時間も適当であると思うし、その後のフリートークの時間設定も適当であると感じた。
- ・時間については現状で良いと感じるが、フリートークの時間を延ばす検討も必要と感じる。

4) 開催会場数について

1	多い	0	0%
2	適当	27	90%
3	少ない	3	10%
	計	30	100%



「適当」の意見

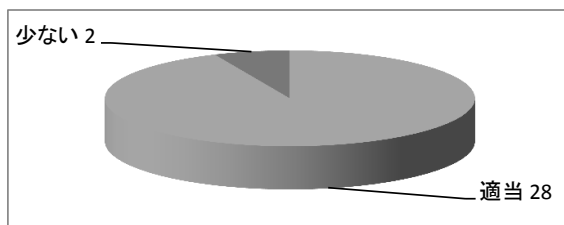
- ・現状の会場数が妥当だと思う。
- ・適当と思う。
- ・参加者の中には(リピーター)開催場所の設置数の増加を希望する声も聞かれたが、現状で良いと感じる。

「少ない」の意見

- ・議会報告会の本旨が議会の信頼性の確保・身近な議会として感じていただくことであるならば、できるだけ各地域にお邪魔して、参加しやすい環境を作る努力をすべきと考える。

5) 議員の出席回数について

1	多い	0	0%
2	適当	28	93%
3	少ない	2	7%
	計	30	100%



「適当」の意見

- ・今回の割振りで良いと思う。
- ・適当と思う。
- ・現状で良い。

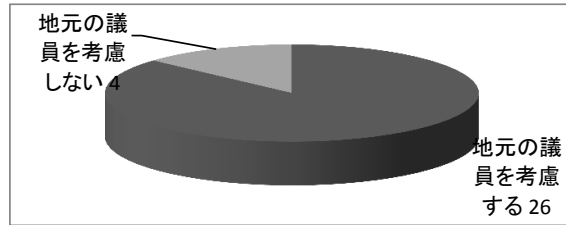
「少ない」の意見

- ・議員としての能力向上及び地域意見を聞く重要性を考えたときに、直接の市民対話は重要であるし、細やかな開催をすれば、自ずと開催回数が増え、議員の出席機会も増えると考えます。

6) 班編成について

(1) 割振地域について

1	地元の議員を考慮する	26	87%
2	地元の議員を考慮しない	4	13%
	計	30	100%



「地元の議員を考慮する」の意見

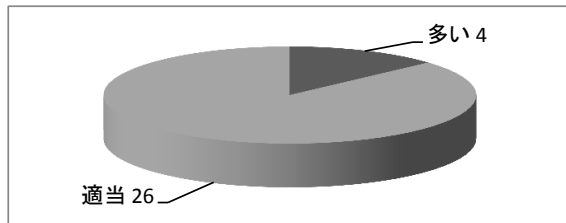
- ・現状で良いと思う。
- ・市の議員である以上、ある程度は地域の問題点や意見の聴取ができてしかるべきと考えるが、地域の専門性の高い意見への対応や参加者の動員を考えた場合に、地元議員の出席が必須となる。
- ・地域特有の声が多いことから、地元議員は考慮すべきであるとする。

「地元の議員を考慮しない」の意見

- ・西方で感じたことは、地元の議員を別の意味で考慮した方が良かったのかなと感じました。
- ・地元の議員を考慮することは理解できる。しかし、そろそろ全くシャッフルすることにも、チャレンジすべきでは。新しい感覚が生まれる可能性もあるのでは。
- ・開催日数を増やして、この項目の概念を無くした方が良いと思う。

(2) 班の人数について

1	多い	4	13%
2	適当	26	87%
3	少ない	0	0%
	計	30	100%



「多い」の意見

- ・一班の人数は減らしても良いと思う。なぜなら、何もしない人がいるから。ただし、フリートークの班分けを考えると、限界かもしれないが。
- ・司会と説明者、記録係のほかに1名がいれば十分であるし、議員の能力向上を図る絶好の機会であるので、5名程度の班編成で充分であるとする。
- ・現状の議員数と班編成の観点から、現状の人数になっている経緯があるが、人数は多いと感じる。議会報告会の理念から、1役/人という基本スタイルは変えられないと思うが、今後検討を要する。

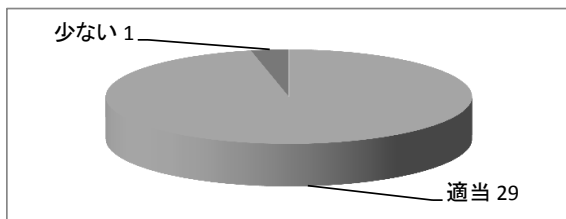
「適当」の意見

- ・現状で良いと思う。

7) 報告事項について

(1) 報告事項の件数について

1	多い	0	0%
2	適当	29	97%
3	少ない	1	3%
	計	30	100%



「適当」の意見

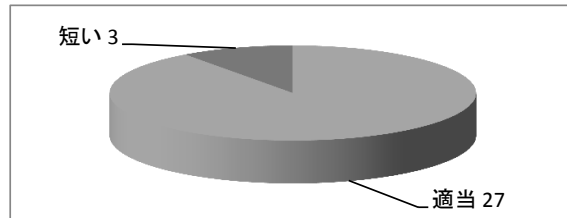
- ・2件くらいで良いと思う。その他の意見はその都度聞けば良いと思う。
- ・報告事項は市民の方々に興味を持っていただける内容かが重要で、時間を考慮した場合に2件程度で良いのではないかと。重要な案件が多数あるときは随時報告項目を増やせば良いと考える。
- ・報告事項は適当であると感じる。これ以上増やさない方が良い。

「少ない」の意見

- ・適当と思うが、あと1項目くらいはあっても良いかも。西方会場では、議会報告が少なく、執行部報告の方が圧倒的に多いのではないかと、という意見もあった。資料のあり方に工夫が必要かも。

(2) 説明時間(1項目あたり5分)について

1	長い	0	0%
2	適当	27	90%
3	短い	3	10%
	計	30	100%



「適当」の意見

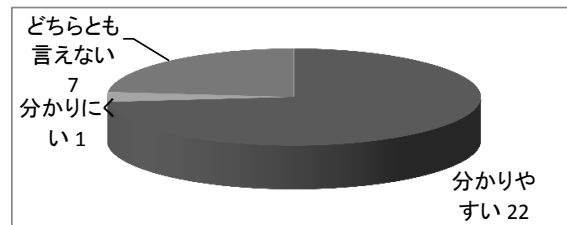
- ・長い説明だと一方的になりやすくなるため、少しでも多くの時間を市民の意見の抽出に用いた方が良い。
- ・適当と感じた。説明は短い方が良いと思われる。
- ・現在、パワーポイントでの説明に加えて充実した内容の資料も配布されており、視覚からも情報が伝達されている。ならば5分は決して短い時間ではないので、適当であると考えます。
- ・報告事項によって弾力的に考える。
- ・これまでの実績から5分という結論を出しているため、適当と判断する。

「短い」の意見

- ・あと2分程度あっても良いのではないかと。
- ・少し5分～7、8分必要。内容が分からない。

(3) スクリーンを使用した説明について

1	分かりやすい	22	73%
2	分かりにくい	1	3%
3	どちらとも言えない	7	23%
	計	30	100%



「分かりやすい」の意見

- ・説明だけでは頭に残らないのでは。スクリーンを用いれば分かりやすいと思う。
- ・市民の方より帰りがけに、スクリーンの図や写真は分かりやすくなった、との声をお聞きました。
- ・スクリーンを使用した方が分かりやすいと思う。継続を望む。
- ・前述でも述べたが、視覚による情報の理解度は有益である。参加者が漫然と説明を聞くのではなく、スクリーンに集中して説明を聞いていたと思われる。
- ・参加者に資料を配布するが、スクリーンを見ずに資料を見ている参加者が多い。事前に参加者に説明すべき。
- ・参加者は、よくスクリーンに集中していると感じる。継続しましょう！

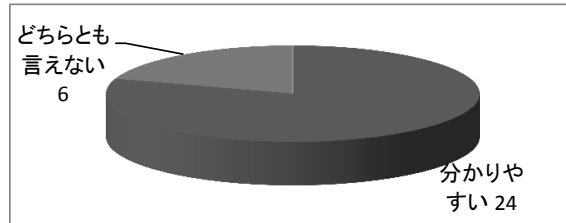
「どちらともいえない」の意見

- ・スクリーンよりも手元の資料を見ている方が圧倒的に多かった。
- ・資料に目をやっている参加者が多く見かけられた。昨年も、今年もー。ふれあいトークも、今は使用していない。
- ・スクリーンと資料どちらをみていいかわからない人が多い。

8) 資料について

(1) 内容について

1	分かりやすい	24	80%
2	分かりにくい	0	0%
3	どちらとも言えない	6	20%
	計	30	100%



「分かりやすい」の意見

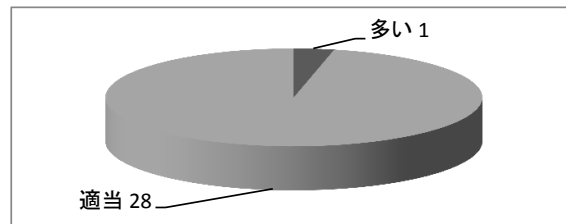
- ・分かりやすかったと思う。
- ・見やすく分かりやすいと感じた。あえて言うならば固い。余白にイラストや写真を多く盛り込んで親しみやすいレイアウトにしても良いかなと感じた。
- ・参加者からの意見を重視したいが、分かりやすいと感じる。

「どちらとも言えない」の意見

- ・もっと簡潔にした方が良い。

(2) 量について

1	多い	1	3%
2	適当	28	97%
3	少ない	0	0%
	計	29	100%



「多い」の意見

- ・盛り込みすぎた感はある。

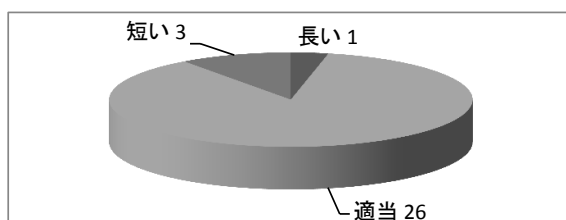
「適当」の意見

- ・適当と思った。
- ・過去の議会報告会に参加していただいた方々からは、資料について少ない・多い双方の意見をいただいている。資料は受け手側によって意見が分かれるが、現行の量で充分だと感じる。
- ・資料の量についても現状で良いと感じる。

9) フリートークについて

(1) 実施時間について

1	長い	1	3%
2	適当	26	87%
3	短い	3	10%
	計	30	100%



「長い」の意見

- ・少し短くしても良い。同じ質問が多い。

「適当」の意見

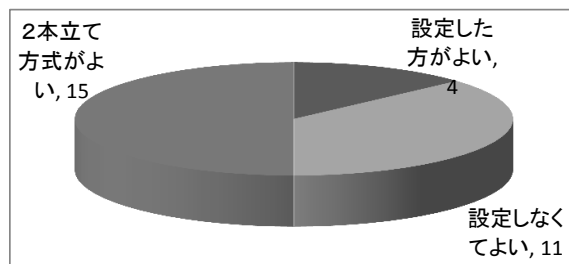
- ・記録係については録音されているので必要ないと思う。記録係は記録にとらわれて意見交換に集中するのが難しい。
- ・その時の状況に応じて、調整しても良いと思う。
- ・班分けをした場合に、市民の方の人数にもよるが、全員から意見をいただこうとすれば、短くはない。しかし、端的に発言していただくように誘導できれば、ちょうど良い時間でまとめられる。
- ・今回の斎場関係のような重要な報告事項があるときは、フリートークの時間を弾力的に変えても良いのではないか。

「短い」の意見

- ・短いと思う。時間で切り上げることは理解するが、参加者が不満な感じはないのでしょうか。
- ・全体の時間から判断すると、現状の時間が適当であると感じるが、参加者は時間の経過とともに意見も比例して多くなる傾向が見受けられるので、もう少し長くしても良いかと感じる。

(2) テーマについて

1	設定した方がよい	4	13%
2	設定しなくてよい	11	37%
3	2本立て方式がよい	15	50%
	計	30	100%



「設定した方がよい」の意見

- ・設定しないと、話が建設的でなくなってしまうと思います。

「設定しなくてよい」の意見

- ・設定するならもっとタイムリーな話題を。
- ・今回のテーマ(子育て支援について)は出席者の年齢、性別等に合っていたのか？高齢者の出席が多く、関係ないとの声が多かった。多くの意見が聞けるようテーマは設けなくても良いと思う。
- ・設定しなくともよいと感じた。テーマを設定するなら、層別の懇談会にすれば、意味はあるかも。
- ・子育て支援についてであったが、その世代の人が少なく、意見が出なかった。
- ・本来のフリートークとは、テーマ無しでフリーのはず。
- ・フリートークなので必要ないと思う。
- ・すべてフリートークで良い。

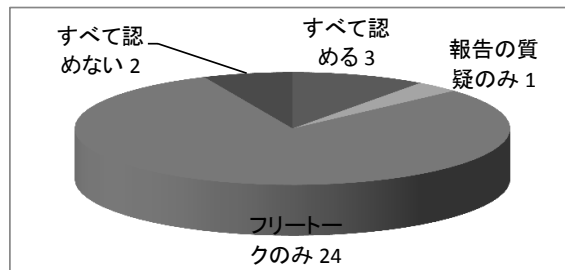
「2本立て方式」の意見

- ・住民の方々は、テーマについて複数の人達が発言するので記録がとりづらい。発言については、もう少し順序良く発言していただくように考えた方が良いと思う。
- ・今回の子育て支援についてのフリートークは、参加者の年齢層に合っておらず、テーマの設定には配慮が必要であると思う。
- ・テーマの話題は、子育て中の参加者からは話が出るが、子育ての終わった参加者にはピンとこない部分があった。しかし、話の持っていく方にはテーマがあった方が良いと思う。
- ・市民の方は施行されている事業について、ご存じないものが多い。議会としては、議員提案により現実化されたものを提示できる。
- ・テーマはよく検討してほしい。(参加者は高齢者が多い)

- ・制約された時間の中での開催のため、ある程度のテーマ設定は必要と感じるが、自由な発言もあった方がベターであると感じる。ただし、焦点がずれてしまうことも懸念されるため、司会進行が重要となる。

10) 議員個人の意見を述べることについて

1	すべて認める	3	10%
2	報告の質疑のみ	1	3%
3	フリートークのみ	24	80%
4	すべて認めない	2	7%
	計	30	100%



「すべて認める」の意見

- ・どうせ聞かれるので、個人の意見と断った上で。

「報告の質疑のみ認める」の意見

- ・自分の考えを入れた意見でないと説得力がない。

「フリートークのみ認める」の意見

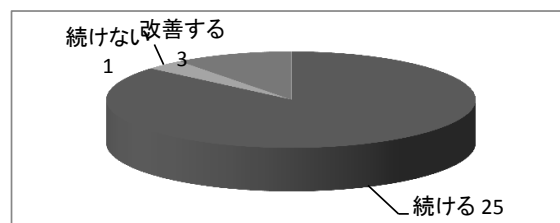
- ・フリートークのみで良いと思う。報告の質疑も認めると、その件は回答者の意見に統一されてしまう。
- ・議会における議案についての議論の顛末と、個人的見解は当然分けて市民に伝えるべきである。
- ・フリートークのみ認めるのが良いと思う。
- ・フリートークのみ認めるで良いと思う。報告の質疑で、個人意見を述べると、混乱が予想されるから。
- ・議会において決定されたものであるもので、説明に対する質疑で述べるべきではないと思うし、個人的な思想意見は、あくまで控えるべき。フリートーク内での発言で充分である。
- ・議会報告会であるため、従来のスタイルは踏襲すべきであると感じる。

「すべて認めない」の意見

- ・栃木市議会としての議会報告会であり、議員個人の報告会ではない。

11) 常任委員会版報告会(意見交換会)について

1	続ける	25	86%
2	続けない	1	3%
3	改善する	3	10%
	計	29	100%



「続ける」の意見

- ・それぞれの業界と意見交換ができて良いと思う。
- ・常任委員会として集約した意見について、議論する機会を得るということは貴重である。
- ・大変、参考になりました。続けてほしいと思います。
- ・現場の声が聞けるので良いと思う。
- ・続けることは良いと思う。
- ・専門性の高い報告を行うという観点では継続すべきである。常任委員会において自由闊達な意見の交換が行われていることを市民の皆様に理解していただく絶好の場であると考えている。

「改善する」の意見

- ・常任委員会でも数回行ったので、委員会にとらわれない新しい形での報告会を検討してはどうか。
(現場、現地視察)

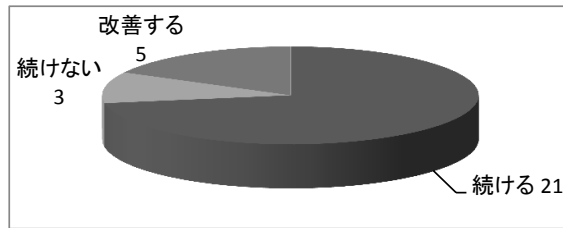
・マンネリ傾向とテーマ選定などに苦慮している状況であると感じる。別の検討を考えてみては？

その他の意見

・そんな事しているのか。

12) 団体とのコラボによる意見交換会について

1	続ける	21	72%
2	続けない	3	10%
3	改善する	5	17%
	計	29	100%



「続ける」の意見

- ・様々な要望を聞くことができ良いと思う。
- ・階層の異なる色々な団体と継続的に行っていくことは、有意義であると思う。
- ・生の声をたくさん聞くことができ、これからも住みやすい栃木市に反映できるよう、自己啓発に繋がりました。
- ・TOCHICO☆サロンとのコラボは大変良かった。とても参考になったので、今後も続けてみたい。
- ・今回の「おしゃべり会」は、良いチャレンジだったと思うが、議員の資質を上げる取組みが必要ではないか。また、今回なぜ、出席議員が運営委員のみであったのかとも感じた。
- ・参加していないので、よく分からないが、話し合いの場をつくるのは良いと思う。

「続けない」の意見

- ・常任委員会版報告会で良いと思う。
- ・今回の企画は個人的に自分が詳しくない分野の課題を知ることができ良かったが、あえて続けなくても良い。常任委員会版報告会で課題を拾えば良い。

「改善する」の意見

- ・問題点の researched とそのテーマに沿った内容で。
- ・特定の団体に偏ることなく開催が行われるのが望ましい。団体とのコラボ以外にも、一般市民を集める通常の報告会も開催してはどうか。団体と一般との2回開催が良いと思う。

その他の意見

- ・準備が足りなかったと感じる。良く分からず開催した感じが残る。(今回の成果は良し)
- ・市民との意見交換の場の拡大という観点からは、団体とのコラボは悪くないと思うが、相手にも失礼がないよう事前検討の議論をさらに充実させる必要性を感じる。

13) その他(全体的に気付いたこと)

- ・同じ人が何度も質問することが多く、たくさんの方の意見を聞くことが難しかった。
- ・フリートークの前段で子育て支援のテーマを設けたが、参加者の年齢では全く関心が無く、話がはずまない。フリートークは自由に発言が良いと思う。
- ・団体との意見交換は常任委員会版報告会で行っているのので、別の形で開かれた身近な議会を考えるべき。
- ・どのように市民に分かりやすい報告会を行うのか、もっと議論すべきと思う。
- ・特定の団体が議会報告会の会場で意見を述べるのは好ましくない。別の場所にすべきである。
- ・フリートーク時のグループ分けをしっかりと仕切る必要がある。また、報告会の打ち合わせ内容は班長から連絡があるのか、会派の委員からなのか、チラシが入るまで全く意識がなかった。書記の役割

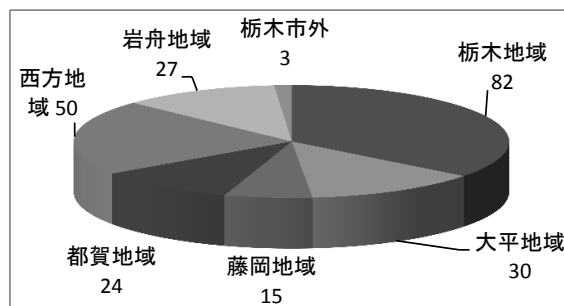
(仕事内容)を終わってから知った。

- ・今回の報告会は、色々な意味で勉強させていただきました。事務局の方は、本当に大変だったと思います。ありがとうございました。
- ・斎場整備については市民の関心もあることなのでタイムリーだった。今後もこのようなテーマで続けるべきである。 ex: 子どもの遊び場建設、給食の無料化、道路(生活道路)整備 など
- ・報告事項に斎場問題を取り上げるべきではなかったと考える。現在進行形の問題であったため、混乱した会場があった。
- ・報告事項の質疑で自分の意見を堂々と述べる議員がいた。決めたルールは守るべきである。
- ・議会報告会はだんだん良くなっていると思います。議員からの報告も話題になっていることの報告をしたので、聞きたいと思って来た方もいて、内容的には良かったです。活発な報告会だったと思います。
- ・少し、運営上のことでルール化すべきと思うことがある。例えば、
 - ①発言している当人が終わるまで、発言しない。発言をさえぎることがないように、冒頭で説明すべき。
 - ②誰が答弁するのかのルールは必要だと感じた。
 - ③マイク担当は、議員がしなくて良いと思う。それがあたかも担当のように考える議員がいるので。
 - ④準備のために早めの集合にしているが、分かっていない人、片付けをしない人など見受けられる。
- ・今回は話題性のある斎場については回答に危惧したが、内容については良いと思う。話題性のあるものを取り入れて良かった。
- ・今回の議会報告会では、議会事務局職員の方に、ほとんど設営をしていただいていた。議員の手による報告会運営が主眼であったはずだが、いささか馴れ合いの流れになりつつある。本来、公務である議会報告会の準備に平然と遅刻してくることも自体が報告会に対する意識の低下と言われても致し方ない。議員として市民の皆様への報告は義務であるという意識を忘れないようにしたい。
- ・議会報告会は各地の様々な課題、要望を拾うことができるので、良い事業と思う。ただ、西方地域の場合は、きちんと報告や質疑応答ができない雰囲気でも残念だった。
- ・先進事例を見ても、もう報告会ではなく公聴会に変化している。まずは、試験的に行ってほしい。
- ・今回の西方地域での議会報告会は何だったのか？ 疑念が残ると言わざるを得なかった。参加者の方達を見ると、自分の意見というより第三者から言われている印象を強く抱いた。議会報告会は個人攻撃の場ではなく、市民との意見交換の場である。このような状況が今後続くことがあれば、開催を検討しなければならない！ いずれにしても、今回の振り返りを議論する必要性を強く感じた。
- ・TOCHICO☆サロンとの意見交換会にて、栃木特別支援学校に、目の不自由な子ども達が通えるクラスを設けていただきたい。県に一校しかない盲学校では、遠方のため通学が困難である。
- ・議会報告会のテーマはなるべく報告を主としたい。今後決めるものはふさわしくないと。一つのテーマに集中して、本来の報告会から外れてしまう。

(2) 市民アンケート

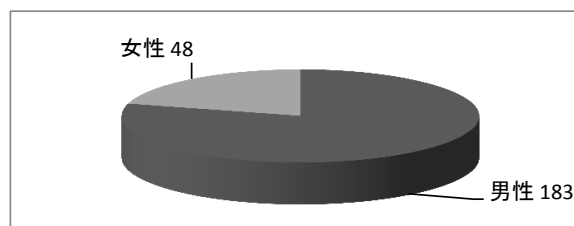
1) あなたのお住まいは？

1	栃木地域	82	35.5%
2	大平地域	30	13.0%
3	藤岡地域	15	6.5%
4	都賀地域	24	10.4%
5	西方地域	50	21.6%
6	岩舟地域	27	11.7%
7	栃木市外	3	1.3%
	計	231	100.0%



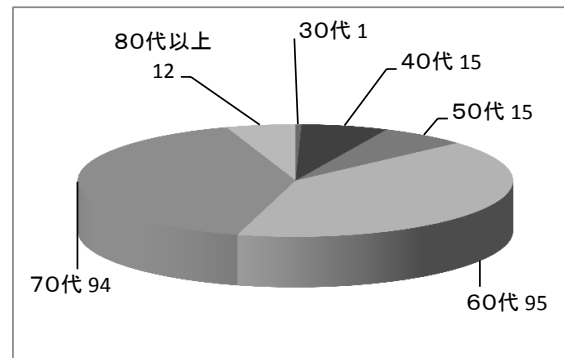
2) あなたの性別は？

1	男性	183	79.2%
2	女性	48	20.8%
	計	231	100.0%



3) あなたの年齢は？

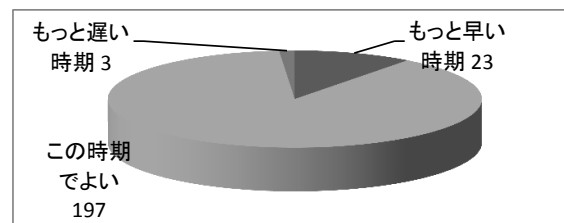
1	10代	0	0.0%
2	20代	0	0.0%
3	30代	1	0.4%
4	40代	15	6.5%
5	50代	15	6.5%
6	60代	95	40.9%
7	70代	94	40.5%
8	80代以上	12	5.2%
計	計	232	100.0%



4) 議会報告会について

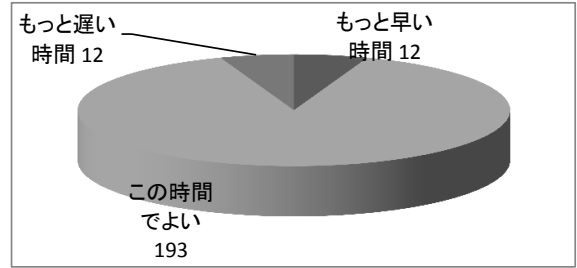
(1) 開催時期は？

1	もっと早い時期	23	10.3%
2	この時期でよい	197	88.3%
3	もっと遅い時期	3	1.3%
	計	223	100.0%



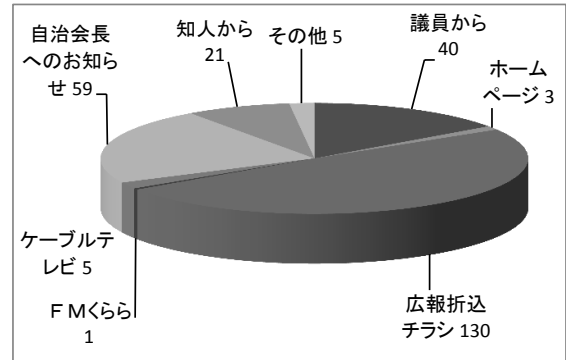
(2)開催時間は？

1	もっと早い時間	12	5.5%
2	この時間でよい	193	88.9%
3	もっと遅い時間	12	5.5%
4	その他	0	0.0%
	計	217	100.0%



(3)開催の情報は何で知ったか？

1	議員から	40	15.2%
2	ホームページ	3	1.1%
3	広報折込チラシ	130	49.2%
4	FMくらら	1	0.4%
5	ケーブルテレビ	5	1.9%
6	自治会長へのお知らせ	59	22.3%
7	知人から	21	8.0%
8	その他	5	1.9%
	計	264	100.0%



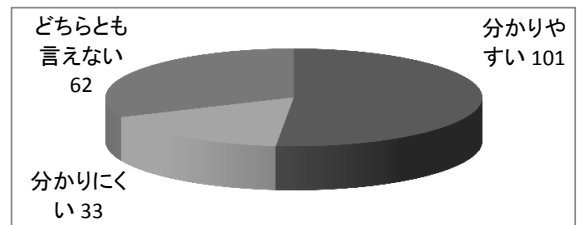
その他

・議会傍聴の際にチラシを見て

5) 議会報告について

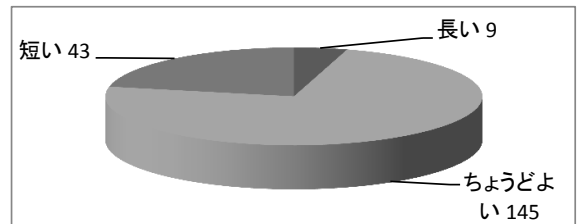
(1) 説明の内容は？

1	分かりやすい	101	51.5%
2	分かりにくい	33	16.8%
3	どちらとも言えない	62	31.6%
	計	196	100.0%



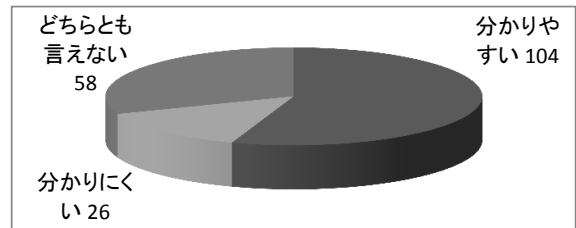
(2) 説明時間は？

1	長い	9	4.6%
2	ちょうどよい	145	73.6%
3	短い	43	21.8%
	計	197	100.0%



(3) 資料の内容は？

1	分かりやすい	104	55.3%
2	分かりにくい	26	13.8%
3	どちらとも言えない	58	30.9%
	計	188	100.0%



(4) 今回の報告以外でどんな報告が必要だと思いますか？

○議会関係

・市議会の年間スケジュール

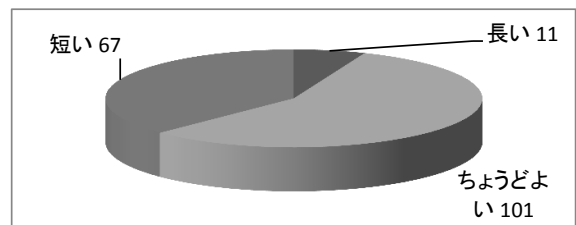
○執行部関係

- ・栃木市の現状 ・予算以上の費用がかかった時の対応(不足分はどこから算出するのか)
- ・県南広域的水道整備事業について ・美術館について ・給食費無料化について
- ・ふれあいトークで出された問題・課題の進み具合について ・市長の公約の進捗状況
- ・斎場建設に関する予算 ・少子化、結婚相談等の人口減少の対応等について
- ・観光農園いわふねについて(補正予算原案修正等)

6) フリートークについて

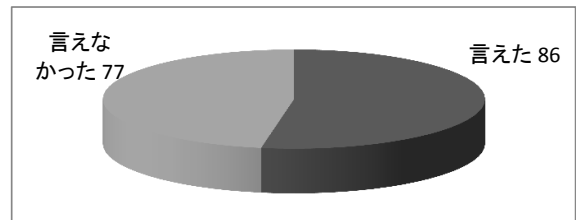
(1) 時間の長さは？

1	長い	11	6.1%
2	ちょうどよい	101	56.4%
3	短い	67	37.4%
	計	179	100.0%



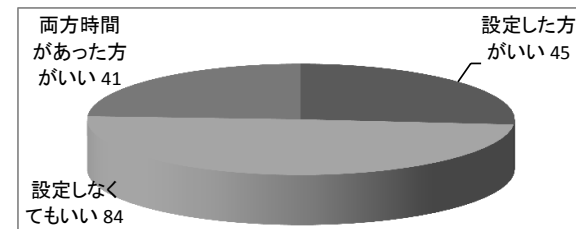
(2) 自分の意見を言えましたか？

1	言えた	86	52.8%
2	言えなかった	77	47.2%
	計	163	100.0%



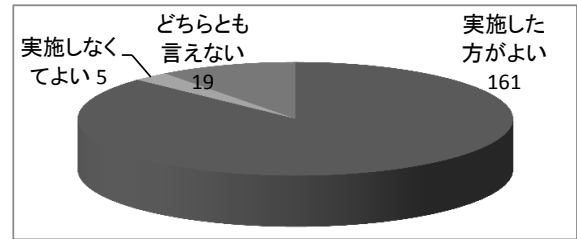
(3) テーマを設定した方がいいか？

1	設定した方がいい	45	26.5%
2	設定しなくてもいい	84	49.4%
3	両方時間があつた方がいい	41	24.1%
	計	170	100.0%



(4) 今後もフリートークを実施したほうがいいのか？

1	実施した方がよい	161	87.0%
2	実施しなくてよい	5	2.7%
3	どちらとも言えない	19	10.3%
	計	185	100.0%



7) 市議会や報告会に関する意見

① 議会報告会について

- ・特定のテーマにトークが偏りすぎていた。
- ・開催地域ごとの問題も内容に入れられたら良い。
- ・フリートークの会場を分けたほうが良い
- ・もっと議員さんと話したかった。
- ・傍聴している議員さんもフリートークに加わって、地域の意見を聞いて欲しかった。
- ・報告会の議事録を自治会へ配付して欲しい。
- ・年度の前半と後半で2回開催して欲しい。
- ・開催は定例会後毎回でも良いと思います。
- ・18歳にも選挙権があることから、土日に関くのも良いのではないかと思います。
- ・開催時期については9月定例会後でいいと思いますが、報告内容については6、9月とあわせて行っていただければと思います。
- ・フリートークが毎回熱が入りとても良い。
- ・若い方の参加が無く残念。時間、参加方法を工夫されたい。
- ・質疑応答は一人一問として、多くの参加者が発言できるよう改善して欲しい。
- ・議会報告はもっと丁寧にやって欲しい。
- ・地区ごとに開催して欲しい。
- ・直接、議員さんに話を聞いてもらえる機会があることは素晴らしいことだと思いました。
- ・時間的な問題もあるが、テーマ数が少ない。
- ・フリートークの際に班別に分かれたが、隣の声が混ざってしまい聞き取りにくいので、もう少し離れるか、別スペースにする方が良いと思う。また、土日なら若い人が参加すると思う。
- ・議員さんが大変良く意見を聞かれ、良くまとめてくださいます感謝の気持ちが強くなりました。議論を深めるにはもう20分くらい増やせないかと感じました。
- ・できない理由の説明だと、参加しようと思わなくなる。どのようにすれば多く参加できるか考えるべき。
- ・せっかく市民が多数参加しているのだから、事前にテーマを設定しなくても、参加者から希望のテーマを聞き、座長判断でその日のテーマを設定したら良いと思う。
- ・斎場の件は予算額の資料が欲しかったが、まだ金額が決定してなくて残念だ。
- ・議会報告会は直接市民に理解される場として今後も必要と思います。
- ・テーマを決めて回数を増やせば良いと思う。
- ・第1部の質疑が長いので、フリートークの時間がなく、意見が言えなかった。
- ・大変良かったと思います。
- ・個人的なことが多すぎると思います。
- ・もう少し意見を集約したうえでフリートークを行うなど、効率を上げた方が良いと思う。
- ・報告会ができることは良いことだ。

②議会や議員について

- ・強い信念を持った議会であることを望みます。
- ・市議という立場は市民の代表です。行政側と戦うつもりで臨んで欲しいと思います。
- ・議員の方々が、日々栃木市の未来の設計図を描き、汗を流していることに敬意を表します。
- ・前市長の時はオール与党の議会運営に見えたが、現在は与党、野党の議会運営になっているので、現在の状況が良いと思う。
- ・議員定数は25名が適当と思う。
- ・市民は議会の混乱を望んでいない。
- ・議員さんにはもっと市民の気持ちを汲み取って話して欲しい。
- ・地元議員には地元住民の意見を大切にしてもらいたい。
- ・議員の先生方、日々のお仕事大変ご苦労様です。今後も市民のためにがんばってください。ありがとうございました。
- ・ふれあいトークにおける市政要望についても、議員もチェックをお願いしたい。
- ・お疲れ様です。お体を大切に市民のためにがんばってください。
- ・やりたいことや言いたいことがたくさんあっても、議員の方が代表である以上不可能。議員になりたくても一般人はなれないのが実状。通常議会は大きなテーマが中心にあるが、住民には小さなテーマが一番必要なこと。今の運営のあり方では不可能でしょう。残念です。
- ・斎場建設地再検討反対の議員さんががんばってください。

③意見・要望

- ・今回の参加議員の中に、新斎場建設に伴う反対者がいたのか知りたかった。
- ・新斎場整備について、決定したことに対し陳情により再検討するなど言語道断である。
- ・斎場は今の平井町の場所を拡張するか、293号沿いに新設する場所があれば良いと思います。
- ・斎場の問題を早く解決してください。
- ・斎場移転反対。
- ・斎場は岩舟と平井の2本立てが良い。
- ・新斎場について、当初平成29年供用開始予定であったが、時間がかかりすぎている。タイムリミットを設けるべきである。
- ・斎場整備についてはこれまでどおり進めていただきたい。
- ・予算の使い方について、予算は必ず消化するのではなく、余っても良いのではないか。
- ・予算は市民の税金なので、無駄なく慎重に使っていただきたい。
- ・給食問題の意見にも給食費無償化にも異論がある。質を落とすより各自親負担とすべき意見も子育て中の親から提案された。自分の子供に税金で食を望むのもおかしい。マニフェストに掲げるが難しい問題。ふれあいバスは小山、佐野など隣接する所までお互いに乗り合えると良い。小山では駅からモール街まで15分おきに運転されているらしい。近隣市で互いに仲良くすべきです。合併後、国の費用で斎場を作るので、早く決定して作って欲しい。
- ・給食費無料化は中止すべき。低所得者には市で保障しているし、7億円以上の必要経費は都市計画税収入分くらいの莫大な金額である。
- ・市民にやさしい市政を目指して欲しい。子育て、教育等の無料化を推進して欲しい。
- ・各種教室へのクーラーの設置が73%だという話を聞いた。100%にいつできるのか、ぜひ早急に設置をお願いしたい。

- ・栃木山の出身地、そして100年記念の相撲興行を巡業時期に記念事業として行って欲しい。議会としても一般質問で取り上げて欲しい。藤岡地区出身の大横綱を称える企画を望みます。
- ・空き家対策について今後の対応は何かありますか？
- ・大型の住宅団地をつくって欲しい。
- ・一般市民税を高くして、都市計画税は無くすべき。調整区域に住む人を優遇している。農家の課税も見直すべきと思う。
- ・施策によっては、時期が遅れると意味がなくなってしまうものもあるので、決まったことは早く実行して欲しい。
- ・地元住民の意見は誰に言えばいいのか分からない。地元の代表が分かるよう地元の組織図が欲しい。
- ・地元のことをよく見て欲しい。
- ・市長の選挙公約が進んでいない。
- ・対立は市民サービスでは無用である。

8. 平成31年度議会報告会への提言

○開催時期について

・アンケートにおいて現在の時期（10月下旬）が適当であるとの意見が多くあることから、同時期での開催を基本とするが、次年度の予算に反映可能な時期での開催も検討が必要である。

○開催日時について

・平日夜間（午後6時30分開始）の開催を基本とするが、議員アンケートにおいて幅広い年代層の参加を促すためには、参加しやすい開催日時の模索が必要との意見もあることから、平日昼間や土日開催についても検討が必要である。

○会場数について

・議員アンケートにおいて現在の会場数（8会場）が適当であるとの意見が多くあることから、地域会議の設置された地域単位での開催を基本とする。

○班編成について

・議員の地域性を考慮することを基本とする。

○報告事項のテーマや内容について

・報告件数は2件、説明は1件5分程度とする。

○議会報告の資料および説明について

・市民アンケートにおいて、説明や資料の内容については分かりやすいとの回答は約半数であり、約3割がどちらとも言えないと回答していることから、より分かりやすい説明や資料の作成について検討が必要である。

○フリートークについて

・市民アンケートにおいて、時間が短いとの回答が約4割、自分の意見が言えなかったと

の回答が約5割あることから、市民から幅広く意見を集めるため、特定の人物ばかりに発言が集中しないように発言時間を区切る等運営方法の検討が必要である。

○議員個人の意見について

- ・議員個人の意見を述べることについては、フリートークのみ認めることとする。

○市民への周知方法について

・広報とちぎへのチラシ折り込みや自治会長への案内を引き続き行うほか、議員自らも参加の働きかけが必要である。また、周知の時期については余裕を持ったスケジュールとなるように検討が必要である。

○常任委員会版報告会・団体とのコラボによる意見交換会について

- ・継続を基本とするが、対象団体の選定方法については検討が必要である。

○その他

- ・報告事項については、市民の関心のあるタイムリーなテーマにするべき、現在進行形のテーマは避けるべき等の様々な意見があったが、幅広く検討が必要である。
- ・報告事項は9月議会だけなのかという意見もあったため、検討が必要である。

参 考 資 料

○議会報告会運営委員会の設置

本市議会では、平成23年3月に制定した、「栃木市議会基本条例」の第8条において、「議会は、年1回以上議会報告会を開催し、市民との意見交換を行うものとする。」と規定し、また、同条例第2条第6項において、「議会は、市民に説明責任を果たすため、市民にとってわかりやすい説明に努めなければならない。」と規定している。

この議会基本条例による議会の役割を果たすためには、議員が積極的に地域に出向き市民との連携を図りながら説明責任を果たす取り組みが必要である。

このようなことから、議会報告会を開催するため、議長の諮問機関として「議会報告会運営委員会」を設置するものである。

1. 名 称

議会報告会運営委員会

2. 組 織

議員の居住地ごとに選出した12人の委員で組織する。

- ・栃木地域 3人（中央1、西部1、東部1）
- ・大平地域 2人
- ・藤岡地域 2人
- ・都賀地域 2人
- ・西方地域 1人
- ・岩舟地域 2人

委員会に、委員長・副委員長を置く。

任期は、議長の在任期間とする。

3. 会 議

委員会は、委員長が招集し、その座長となる。

委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことはできない。

議長は、委員会に出席し、意見を述べることができる。

会議結果は、適宜議長に報告する。

4. 検討事項

- (1) 議会報告会の企画・立案に関すること。
- (2) 議会報告会の開催・運営に関すること。
- (3) その他

○平成30年度 栃木市議会報告会開催要領

1 開催日時

10月25日(木)、26日(金)、29日(月)、30日(火)の4日間、地域会議が設置された市内8地域で開催し、栃木文化会館のみ午後2時開始、それ以外の会場は午後6時30分開始とする。

2 班編成

議員の地域性を考慮しつつ、各会場に地域外の議員が出席出来るように編成する。1班7人以上の議員で編成し、議員1人当たり2回の出席とする。(別紙2)

3 報告会の役割分担

報告会における役割は、班長、副班長、司会、報告者などとし、それぞれの班において協議し、調整する。(受付・マイク係・お茶係は臨機応変に対応し行う)

なお、答弁は、全員で行うものとする。

役割	留意事項
班長	・班を統括し、報告会の運営を行う。
副班長	・班長を補佐し、班長に事故あるときは、班長に代わり報告会の運営を行う。
司会	・参加者からより多くの発言が得られるように配慮することとする。 (同じ人が連続して発言することのないよう注意する) ・報告に対する質疑の際の議員個人に対する質問については、個人の意見を報告する場ではないことを理解してもらうように努める。 ・同じような質問が出た場合は、その旨を話して了承してもらう。
報告者	・報告内容をわかりやすく説明する。(参考までに口述例を配布するが、資料に基づき説明しても良い)
記録者	・後日、回答しなくてはならない質疑が出る可能性もあるため、自治会名、氏名、質疑内容、回答内容を記録しておく。(別紙4 議会報告会記録簿) ・音声を録音する。
フリートーク進行役	・参加者からより多くの発言が得られ、活発な意見交換となるよう配慮する。
フリートーク記録者	・進行役を補佐し、フリートーク内の発言を記録する。(別紙4 議会報告会記録簿) ・参加者からの発言を整理し、最後のまとめの時間に発表する。 ・音声を録音する。

4 報告会の次第

報告会は、報告の説明10分、質疑応答5分とし、フリートークを60分、まとめとしてグループごとの発表を10分程度行い、1時間30分程度で終了する。

(1) 開会 (司会)

(2) あいさつ (班長)

出席者自己紹介

(3) 議会報告 (10分) (班の報告者)

・ 齋場整備について

・ 9月議会について

(4) 報告に対する質疑 (5分)

(5) フリートーク (60分)

テーマを設定したフリートークと設定しないフリートークとの2本立てとする。

時間配分は、テーマ有り20分、テーマ無し40分を目安とするが、進行の状況により各グループで判断する。

1グループ10人程度を目安とし、参加人数に応じて臨機応変にグループ分けを行う。(議員は各グループに2～3人ずつ入り、進行と記録を行う。)

テーマ：子育て支援について

(6) まとめ (10分) (フリートーク記録者)

グループごとに、出た意見を発表する。

(7) 閉会 (司会)

5 会場準備

栃木文化会館は午後1時(午後1時30分受付開始)、それ以外の会場は午後5時30分(午後6時受付開始)までに各会場に集合し、全班員で会場準備を行う。(別紙3議会報告会基本レイアウト図)

6 資料

報告会での配布資料は共通資料とする。

7 会議結果等

報告会の会議結果等は、報告会終了後、各班の班長がまとめて議会事務局に提出する。(別紙4議会報告会記録簿)

8 常任委員会版報告会

常任委員会ごとにテーマを設定し、そのテーマに合った団体等、場所でフリートーク(意見交換)を行う。

(1) 開催日時

10月から11月上旬までの期間とし、常任委員会ごとに開催する。開催時間については、相手方と調整のうえ決定する。

(2) 会場

各常任委員会にて決定する。

(3) テーマ

各常任委員会にて決定する。

9 子育て世代との意見交換会

栃木保健福祉センターにおいて、子育て世代の情報交換の場として毎月開催されている TOCHICO☆サロンに出向き、参加者との意見交換を行う。別に要領を定める。

10 その他

(1) 議員個人の意見

報告に対する質疑の際は、議員個人の意見を述べてはいけませんが、フリートークの際は、議員個人の意見を述べてもよい。

(2) 資料作成班

報 告 内 容	作 成 議 員
斎場整備について	○中島克訓・浅野貴之・針谷育造・針谷正夫・梅澤米満
9月議会について	○古沢ちい子・森戸雅孝・川上均・小久保かおる・福富善明

○印 班長

(3) 市民の意見等の取扱いについて

報告会における市民からの意見等については、なるべくその場において解決することとし、後日回答が必要な場合は、別紙4 議会報告会記録簿の質問者への返答（要・不要）に記入することとする。

(4) 執行部への提言について

報告会において出た意見のうち、特に参考とすべき事項について提言書として提出する。

○議会報告運営委員会 開催状況

	開催日	議 題
1	平成30年 7月10日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長の互選について ・副委員長の互選について ・議会報告会の概要について ・平成30年度議会報告会について
2	平成30年 7月25日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度議会報告会について
3	平成30年 8月 3日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度議会報告会について
4	平成30年 8月20日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度議会報告会について ・今後のスケジュールについて
5	平成30年 9月19日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・報告会資料の検討について
6	平成30年10月 2日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・報告会資料の検討について
7	平成30年12月10日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・議会報告会の検証について ・報告書の作成について ・提言書の作成について
8	平成31年 1月31日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・提言書 (案) について ・報告書 (案) について

議会報告会運営委員会委員名簿

◎ 氏 家 晃
○ 入 野 登志子
森 戸 雅 孝
浅 野 貴 之
川 上 均
古 沢 ちい子
小久保 かおる
針 谷 育 造
福 富 善 明
針 谷 正 夫
梅 澤 米 満
中 島 克 訓

◎ 委員長 ○ 副委員長

斎場整備について ～これまでの経過～



現栃木市斎場



南部清掃工場跡

1 なぜ整備が必要なのか

現斎場の概要

所在地	栃木市平井町338番地
供用開始	昭和54年（約38年経過）
敷地面積	6,899 m ²
延床面積	865 m ²
火葬炉数	5基

現斎場の主な課題

- ①施設の老朽化
- ②火葬需要の増加への対応 など



2 候補地選定及び建設地決定経緯の概要

(1) 斎場再整備検討委員会

平成24年11月

構成：学識経験者や葬祭業者、地域代表者等

現在まで
21回開催

基本構想・基本計画の策定、候補地選定方法、候補地の絞り込み等、事業の構想の段階から市民の意見を反映させることに努めてきた。

(2) 斎場再整備基本構想及び基本計画

パブリックコメントの
実施による市民意見
の反映

- ① 基本構想策定（平成25年3月）
→ 斎場再整備の基本的な考え方など
- ② 基本計画策定（平成26年6月）
→ 施設整備に必要な具体的な事項や選定方針など

基本計画における敷地面積の試算に基づき、必要敷地面積を概ね19,000㎡以上と決定

必要敷地
面積決定

現斎場の敷地だけでは改築不可能であることから、新たな候補地の検討を開始する。

(3)新斎場最終候補地選定経過

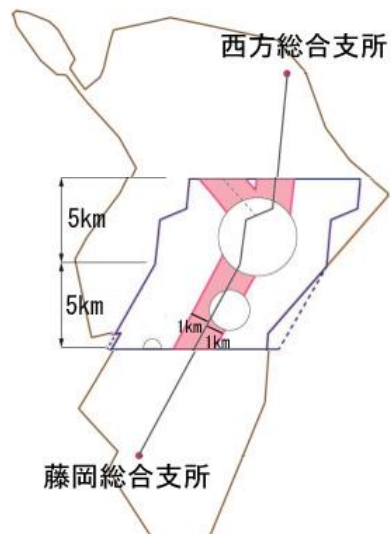
斎場再整備検討委員会における検討

1次選定 エリアの抽出

- ・西方、藤岡総合支所の中間点から南北、東西各5kmエリア内
- ・幹線道路、準幹線道路両側1km
- ・市街化区域等を除く

2次選定 候補地の抽出・絞り込み

平成26年9月、皆川城内高速南、現斎場及び東側、南部清掃工場跡、岩舟運動公園の4候補地に絞り込み



イメージ図
※栃木市斎場再整備基本計画より

(3)新斎場最終候補地選定経過

斎場候補地選定会議における検討 構成:副市長・関係部長

平成26年10月～平成27年3月

① 4 候補地の中から斎場再整備検討委員会の評価をさらに具体的（詳細）に検討した結果、最終候補地として「南部清掃工場跡」を選定

②最終候補地が選定された旨を市議会へ報告 平成27年5月

(4)新斎場建設地決定

平成28年1月

新斎場の最終候補地決定に伴い、地元三谷地区での説明会や全戸訪問等を行い、施設の必要性や最終候補地選定の経緯などについて説明・報告し、地元住民等への周知は十分に図られたことから、南部清掃工場跡を建設地として決定し、建設に向けた具体的作業に着手する旨を表明した。

【主な流れ】

- ①計7回の地元説明会の開催
- ②全戸訪問の実施

地元説明会や全戸訪問概ね事業への理解を深めていただいた。

新斎場建設地の決定

正式発表

市議会報告
記者発表
市広報
各地域会議

(4)新斎場建設地決定

地元自治会の事業受入れ及び要望書の提出

平成29年7月

要望書の趣旨

- ①新斎場建設地として南部清掃工場跡が選定された旨の正式発表を受け、地元三谷地区住民で検討を行った結果、地元としては、新斎場建設を受け入れ、三谷地区発展のため、地域づくりを推進していく考えである。
- ②新斎場の建設に伴う交通量の増加や火葬場からくる地域のイメージの悪化等に係る対策を求める。

市の対応方針

要望の実現に向け、検討を進めているところである。

3 環境影響評価の実施について

目的：新斎場の整備に先立ち、事業実施区域及びその周辺の環境を調査・解析し、建設に伴う影響を予測・評価し、地元住民等の不安解消や環境の保全に資する。

調査期間：平成28年10月から平成29年8月

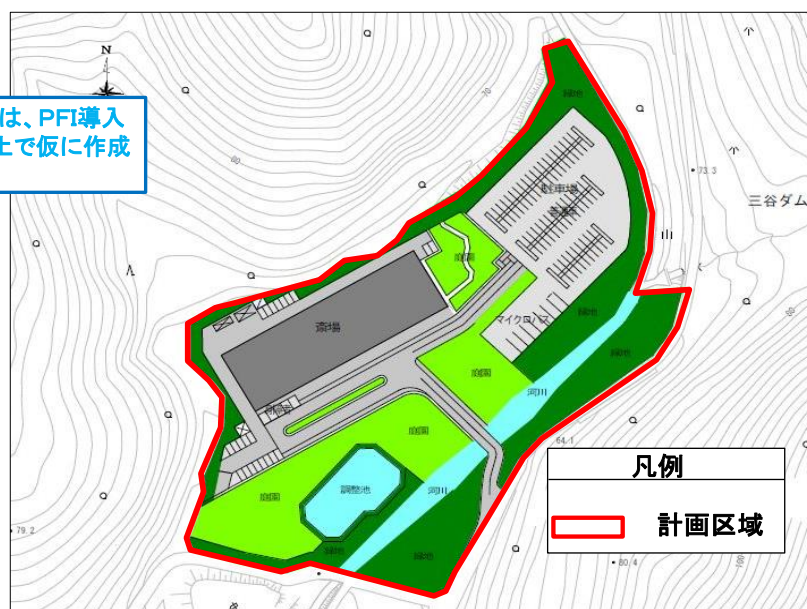
調査項目：大気質、水質、土壌、騒音、振動、臭気、景観、動植物等

総合的評価

事業により動植物へのある程度の影響は避けられないものの、適切な保全措置を講じることで、影響を最低限にすることができる。とともに、事業による生活環境、自然環境、景観への影響は小さい。

計画図(参考図)

※当該計画図(参考図)は、PFI導入可能性調査を実施する上で仮に作成したものです。



4 議会の対応と斎場整備の現状

(1) 予算議決の経過

- ① 平成24年度当初予算〔基本構想・基本計画策定費等〕
- ② 平成25年度当初予算〔候補地選定等技術支援業務費等〕
- ③ 平成28年度当初予算〔用地測量、環境影響評価調査費等〕
- ④ 平成28年度補正予算〔PFI導入可能性調査費等〕
- ⑤ 平成29年度当初予算〔進入路・交差点測量費等〕
- ⑥ 平成29年度補正予算〔進入路・交差点設計費等〕
- ⑦ 平成30年度当初予算〔西側進入路・排水路等設計費等〕

(2) 議員研究会の経過

平成25年2月〔基本構想案〕、12月〔基本計画案〕
平成26年6月〔基本計画パブリックコメント〕
平成27年5・6・7月〔最終候補地関係〕
平成28年1月〔建設地決定〕、8月〔事業スケジュール〕、11月〔進捗状況〕
平成29年6月〔霊柩車検討等〕、9月〔実施手法〕、
12月〔環境影響評価・PFI導入可能性調査結果〕
平成30年2月〔新斎場整備基金〕、
8月〔市長から新斎場建設地再検討方針が示される〕

(3) 斎場整備の現状

新斎場の見直しを求める陳情書

- ①平成30年 6月7日 寺尾地区自治会連合会（自治会長11名押印）
- ② 〃 8月7日 西方地域住民有志（1300人余の署名）



【対応】

市

・8月31日決定
「新斎場建設地再検討方針」
⇒3候補地から再度選定する。
「南部清掃工場跡」
「現斎場及び周辺」
「皆川城内高速南」

議会

陳情書②について審議
・9月14日 民生常任委員会
⇒不採択とする
・9月26日 本会議
⇒不採択とする



○9月議会日程(8月31日から9月26日までの27日間)

- 8月31日(金) 開会 (報告、議案の説明聴取など)
- 9月 4日(火)~7日(金) 一般質問(各日5名登壇)
- 9月10日(月) 総務・民生常任委員会(決算説明聴取)
- 9月11日(火) 産業教育・建設常任委員会(決算説明聴取)
- 9月13日(木) 総務常任委員会(審査)
- 9月14日(金) 民生常任委員会(審査)
- 9月18日(火) 産業教育常任委員会(審査)
- 9月19日(水) 建設常任委員会(審査)
- 9月26日(水) 閉会(議案等の討論、採決など)

○9月議会に提出された案件

報告9件

- ・報告第14号 平成29年度栃木市継続費精算報告書など

議案24件

- ・議案第81号 平成30年度栃木市一般会計補正予算(第2号)など

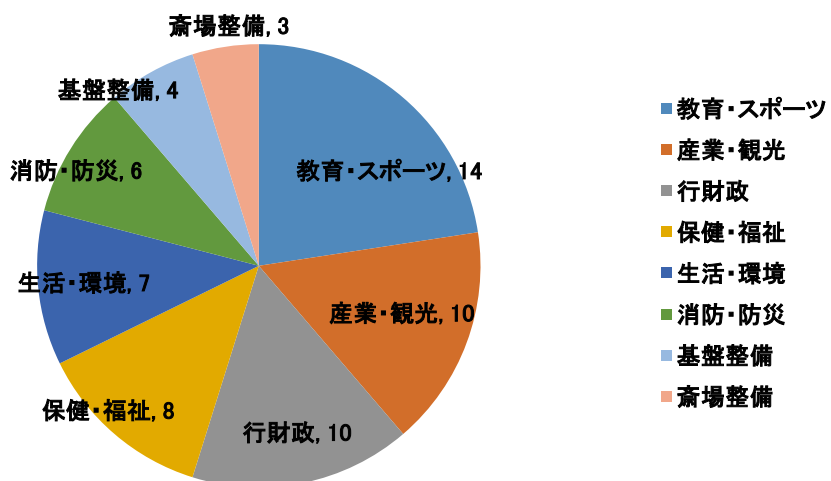
認定9件

- ・認定第2号 平成29年度栃木市一般会計歳入歳出決算の認定についてなど

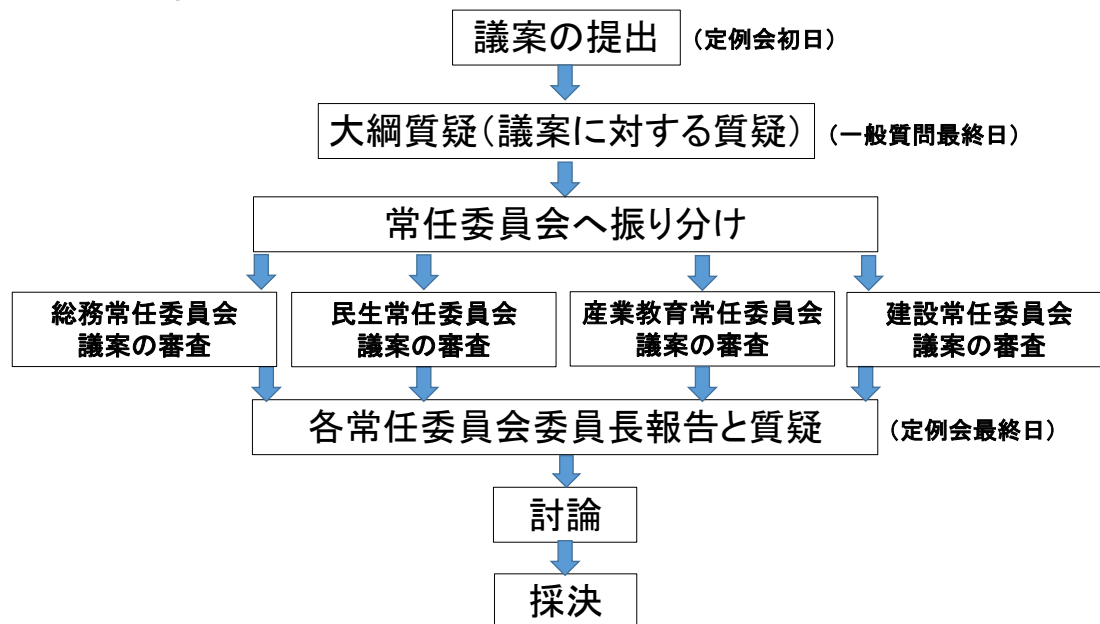
陳情1件

- ・陳情第2号 栃木市斎場整備の見直しを求める陳情書

○一般質問



○議案審査の流れ



○各常任委員会で審査された案件

総務常任委員会

- ・議案第95号 財産の取得について 他3件
(内容)

栃木市消防署西方分署に配備中の高規格救急自動車1台が老朽化したため、新たに購入する

民生常任委員会

- ・議案第92号 工事請負契約の締結について 他14件
(内容)

北部健康福祉センター(仮称)新築建築工事の工事請負契約を締結する

○各常任委員会で審査された案件

産業教育常任委員会

・議案第90号 栃木市奨学金貸付条例の一部を改正する
条例の制定について 他6件

(内容)

奨学金に係る運用の見直しに当たり、条例の一部を改正する

建設常任委員会

・議案第89号 栃木市手数料条例の一部を改正する条例
の制定について 他7件

(内容)

建築基準法の一部改正に伴い、条例の一部を改正する

○平成30年度栃木市一般会計・各特別会計補正予算について

(単位:千円)

議案	会計名	補正額	補正後
第81号	一般	678,763	64,843,483
第82号	後期高齢者医療	1,404	1,866,771
第83号	千塚町上川原産業団地	0	23,132
第84号	下水道	未収金	34,143
		未払金	△160,478
			421,522

○認定第2号 平成29年度栃木市一般会計歳入歳出決算の認定について

(単位:円)

区分	平成29年度	平成28年度
歳入	66,506,286,782	66,265,320,698
歳出	63,586,823,596	63,862,950,501

平成28年度と比較して、歳入が約2億4千万円増加
歳出が約2億8千万円減少

(主な理由)

- ・歳入…景気回復や新築家屋等の増加による税収増 など
- ・歳出…小中学校校舎整備事業費や災害復旧費の減少 など

○議案等に関する討論

認定第2号 平成29年度栃木市一般会計歳入歳出決算の認定について

反対

- ・少子高齢化や格差、貧困への対策が不十分である
- ・国保特別会計への繰出金の大幅減額は国保加入者の負担増につながっている

賛成

- ・人口減少対策や安全・安心に関する施策について、ハード事業とソフト事業を効果的に組み合わせ、地域バランスにも配慮した実効性のある事業が展開されている

※他6件の議案等について討論あり

○採決結果

議案 24件

- ・ 議案第81号 平成30年度栃木市一般会計補正予算(第2号)など
⇒可決すべきものとする ※議案第81号一部修正あり

認定 9件

- ・ 認定第2号 平成29年度栃木市一般会計歳入歳出決算の認定についてなど
⇒認定すべきものとする

陳情1件

- ・ 陳情第2号 栃木市斎場整備の見直しを求める陳情書
⇒不採択とすべきものとする

9月議会については、11月20日発行の
「とちぎ市議会だより」にも掲載されます。
ぜひ、ご覧ください！



フリートークにおける主な意見、要望、回答

○国府公民館 10月25日(木)

<テーマ:子育て支援について>

Q:現在、栃木市に待機児童は何人くらいいるのか。

A:若干名いる。

Q:保育園の待機児童はどうか。

A:保護者の希望に沿えない場合や、0歳～2歳児にご不便をおかけしている。保育士の確保と処遇改善を推進したい。



意:待機児童問題について、本当に保育園等がないのか。昔と比べて、子育て支援は充実しており、わがままな面もあるのではないかと。また、家族や地域との繋がりが希薄なことも原因であると思う。

Q:給食費無償化について、予算財源はあるのか。

A:予算の捻出について、市長も執行部と調査研究しているところである。段階的導入という形式で検討がなされている。

Q:給食費無償化の可能性、見通しはあるのか。

A:様々な方法を検討しているところであり、まだ決定していない。

要:栃木市には産婦人科がない。子育ての前に産むところを整備してほしい。

A:市長の公約でもあり、検討を進めている。

意:とちぎメディカルセンターに産科がないので将来的に心配である。近隣の病院にというのであれば、交通費補助を考えてあげるべきである。

A:素晴らしい提案なので、ぜひ要望していきたい。

Q:学童保育について、国府地区では、今後、待機児童が増えていくものと思われる。すまいるクラブという民間の学童保育との連携は。地域格差もあると思うが、今後の対応は。

A:公立の学童保育については、産業教育常任委員会で所管している。教育委員会で小学生の児童数の推移を把握し、学童保育の整備について検討していくので、児童数が増加した際の対応は準備をしている。ただ、人員配置の件もあるので、民間の学童保育にも協力を得なければならない。

意:子育て支援について色々と事業を行っているが、重要なことは支援を必要としている人がどれくらいの支援を受けられているのか、市が支援の必要がある人を把握するためにどのような体制をとっているのかということである。母子保健推進員による声掛けなど、支援体制を充実させるべきである。

意: 民生児童委員、母子保健推進員が縦割りである。家庭と繋がっていない。

Q: 来年3月で遺産相続控除の学費目的が終わると聞いたがどうなのか。

A: 調査して回答する。

<テーマなし>

Q: 斎場再整備について、新たに指定された区域名は。

A: 土砂災害特別警戒区域である。最近の日本での土砂災害の問題を受け、新たに県で見直した結果、新たに土砂災害特別警戒区域が指定された。

Q: 土砂災害特別警戒区域になったことで、新斎場建設地を見直しているのか。

A: 指定されたことで、土石流を止めるための堰を造る必要性が出てきたため、当初予算にはなかった予算も必要となるため、見直しをしている。

Q: 新斎場建設候補地である岩舟町三谷の南部清掃工場跡は、もともと土砂災害特別警戒区域に指定されていたのか。

A: 指定されていたが、範囲が広がった。

Q: 新斎場の整備は始まっているのか。

A: 土壌調査、測定の整備はしてきた。

要: 斎場再整備について、早急に建設してほしい。

要: 何年もかけて斎場再整備を検討しているが、納税者としては早く建設してもらいたい。

意: 新斎場建設地再検討はとんでもないことである。予算を使って、理由もない。許せない。

Q: 文化芸術館・文学館建設はどうなっているのか。水害の対応は万全なのか。

A: 現在、設計の見直しを行っている。水害対策を含め、議会として皆様のご意見を伝えていきたい。

要: 思川は一級河川であるが、整備が行き届いていない。イノシシやまむしもでてくる。アカシアの木を住処にしているようなので、関係機関と連携し対策してほしい。

要: 水道ビジョンが策定されようとしている。その中で設備の老朽化で水道料金が20%上がるようである。議会は状況を判断して、市民のための判断をしてほしい。

Q: 県北の方では議会コンサートをやっているニュースを見たが、栃木はどうなのか。

A: 数年前までは議場コンサートを行っていたが、現在はないので、また検討していきたい。

○大平健康福祉センター 10月25日(木)

<テーマ:子育て支援について>

意:給食費を無償化すると市長が言ったのであるから絶対にやっていただきたいと思う。やらなければ嘘を言ったことになるのでやらせるべきだ。

意:給食費無償化は実施しなくても良い。現在も生活保護、準要保護の家庭は無料になっている。他に予算をかけるべきところがたくさんある。



要:給食費無償化ばかりが話題になっているが、重要な施策はたくさんあるはずである。給食費無償化には反対であり、市民の責任である給食費よりも、弱者救済やすべての市民に対する施策をしっかりやってほしい。

意:給食費無償化について、子どもの食事は親の責任であるので反対である。

意:給食費無償化には絶対反対である。子どもは社会のものである。給食費無償化は少子化対策と言っているが、そうではないと思う。

意:給食費無償化を市長はやると言っているが見通しはあるのか。財政の健全化を言っているが相反することを主張しているように思われる。

意:小学校の時に給食費がいくらかかっているかを先生から聞いたことがある。300円位かと思っていたら、160円位だと知って驚いた経験がある。「いただきます」という気持ちが大事である。両親や市に感謝しなければならないと強く思った経験がある。

Q:下都賀病院跡地に整備予定の子どもの遊び場について、整備が進んでいないようだが。

A:まだ、計画を作成中である。

意:子育ての環境が大きく変わってきているのではないか。子どもの医療費の負担はほとんどなくなっているが、非正規雇用が増えており、今後も子育て支援をしていくべきである。

要:不登校の子がより来やすい雰囲気 of 適応指導教室を整備してほしい。高根沢町の「ひよこの家」は町が建物を整備し、民間が運営しており、来やすい雰囲気づくりができています。

要:栃木市は子育てがしやすいということをもっとアピールしてほしい。

<テーマなし>

要:教育長などに学校をまわってもらい、学校施設の老朽化の現状や直接子どもに意見を聞くなど学校の実態調査を行ってほしい。教員をサポートできるような体制にすべきと思う。

要:教育委員の学校訪問ができていますか。学校の実態調査の充実を望む。

意:学校教育に蚕の飼育を取り入れてはどうか。子どもの情操教育に、各地域で蚕を飼育して、子ども達に日本人としての心を育てていただきたいと思う。

要:吹上小学校給食共同調理場の建て替えが止まっていて困っているようなので、早急に対応をお願いしたい。

要:学校のトイレにウォッシュレットを付けてほしい。

要:北武井地内、寿橋の通学路にガードレールを設置してほしい。

要:下皆川の通学路に、歩行者ゾーンと自転車ゾーンの色分けをしてほしい。

要:地域の子どもの見守り活動に限界が来ている。市で対策を考えてもらいたい。

意:大平町西山田の業者の埋立てについて、現在500㎡以下の埋立ては届出のみで可だが、市としても条例を制定し、小規模なものに対してもルールを変えて対処すべきである。

意:不法投棄問題について、ドライブレコーダーを活用した監視体制を整備したらどうか。市民に協力者となってもらい、警察との連携のもと実施すれば効果が上がるのではないかと。

意:職員削減が進んでいないのではないかと。市の職員の削減を行うことにより、予算の配分を変えて福祉の充実を図るべき。

要:栃木山100周年相撲を栃木市でやってほしい。

意:都市計画税を払っている人は農機具が購入できない。公平にするためには都市計画税を廃止して市民税を上げたら良いのではないかと。

意:民間企業にAEDを設置いただき、近隣で必要になった際に貸し出しができるようにしたらどうか。

意:下水道事業は地域によって不要である。予算がなく遅々として進まない下水道事業は高額な受益者負担金が求められることから、地域によっては必ずしも必要とされていない。

要:川連の道路を補修してほしい。

意:西前原排水機場の安全性について、以前の豪雨災害時に故障している。

要:西水代集会所の畳が老朽化しているので修繕してほしい。

要:9月議会だけでなく、6月議会と併せて報告を行ってほしい。

○皆川公民館 10月26日(金)

<テーマ:子育て支援について>

Q:児童手当の額について教えてほしい。

A:0～3歳未満が15,000円、3歳～小学生が10,000円(第3子から15,000円)、中学生が10,000円である。

Q:栃木市では待機児童はいるのか。

A:ほとんどいない状況である。しかし、母親の勤めている近くの保育園に入園させたいと考えている親もいるので、その場合は何人かの待機児童はいる。



Q:給食費無償化の進捗状況はどうなっているのか。

A:来年度より段階的実施の方向で検討中である。

要:市長マニフェストの給食費無償化について、議員としても後押ししてほしい。

意:給食費無償化には反対である。

Q:市長公約であるときぎメディカルセンターへの産科設置の進捗状況はどうなっているのか。

A:産科医の確保が課題となっている。助産婦さんの活用を検討しているようである。

要:独自のアンケートでは産科の設置を望む声が多いので、早急に設置してほしい。

意:親同士のコミュニケーションが取れない親がいて、それが子どもにも影響を与えている。そのような親への支援が必要である。

<テーマなし>

Q:斎場施設はどのような建物、設備か知らない。家族葬に対応できる場所は何室あるのか。

A:家族葬は1室のみであり、現在のニーズに対して少ないように思われるので、検討が必要である。

Q:岩舟の斎場予定地に向かうブドウ団地の市道で、冬期に凍結でスリップした経験がある。対策はしているのか。

A:まだ検討中である。

意:斎場再整備について、選定場所はバランスを欠いている。

A:パブリックコメントを実施し、市民からの意見を聞く場を幾度となく作ってきた。

意:斎場再整備について、一度議会で決めたことを再度議論している。

A:市長には、議会軽視であり、現行の計画で進めるべき意見を伝えてある。

意: 斎場再整備について、早く工事を始めるべきである。

Q: 皆川地区の学校は統合され、将来的には皆川地区に学校がなくなってしまうと聞いているが、そうなる若くは若い世代がいなくなり地区が衰退してしまう。その点、どのように考えているのか。

A: 確かに学校は必要だと思うが、一方で、少子化により学校が少人数になると、部活動など希望の活動ができないという面もあるので、子ども達のためにも統合は必要と考える。

Q: スクールバスを利用できる距離を延長できないか。また、蔵タクを利用できないか。

A: 対応できるよう執行部につなぐ。

要: 教員は忙しいので、地域で子ども達の見守りをしてほしい。

A: アシストネット事業を活用していただきたい。地域の人が見守る体制はとっている。

要: いじめを無くし、子ども達が安心して学校に行ける状況を作してほしい。

Q: 文化芸術館の建築費用を45億から38億に減額しても、国の補助金額は変わらないと聞いたが、本当なのか。

A: 確認して報告する。

意: 現在、本市では大きなイベントが無い。マラソンや自転車等のイベントを開催したらどうか。

A: 執行部へつなぐ。

要: 生活道路は防塵舗装が多く、傷みが激しい箇所が多い。補修工事と本舗装への切り替えをしてほしい。

意: とちぎメディカルセンターの医療スタッフについて、多くの患者を診察しなければならない時間的制約があるので、細かな診察ができないという話を聞いている。

要: とちぎメディカルセンター北側の五差路は危険である。事故も多発しているので、信号機を設置してほしい。

Q: 空き家対策について、過疎化が進み自治が成り立たなくなる。非常に深刻な問題であるが、対策はどのようなものか。

A: あったか住まいの事業の利用を図るなど、対策を講じていく。

要: 県の思川開発事業について、水道水を思川から取水することには汚染の面で不安がある。議員さんには議会できちんと思川からの水はいらないと意見表明してほしい。

意: デマンドタクシーの利用を、災害時に避難困難者に活用できないか。

意:快速電車を復活させ、東京と栃木市の時間の距離を短くすべきではないか。

A:東武鉄道との協力体制をさらに強化していく。

意:栃木市には大規模な住宅団地がない。人口増には必要ではないか。

A:開発には調整区域との関係が難しい。以前は50戸連単制度を活用して、調整区域での開発を許可していたが現在は無い。今後の課題として考えていきたい。

要:民間デベロッパーと市職員、議員とで話し合っで民間目線で栃木市の将来像を描いてもらいたい。また、若い人が住みやすい街、よそから移住した人も「住みやすい田舎」ということを売りにして、もっと人口増を図ってほしい。

A:まずは、働くところが近くになくは若い人もよそから来た人も定住は難しい。今後栃木市では、千塚産業団地の他にも栃木インター周辺、都賀平川地区、佐野藤岡インター周辺の開発を進めていく。

Q:千塚産業団地はどのくらいの雇用が期待できるのか。

A:約500人の雇用が期待できる。

意:少子化であり、自治会内では子ども8名(小～中学生)しかおらず、来年度は小学校へ入学する子どもがいない。結婚する若者は地元に戻って来ない、地元に残るものは50歳でも独身者ばかりである。

A:国や市は従来から、子育て世代の経済負担を軽減し、若者の結婚や多子化につなげる意図を持って、医療や幼稚園を含む教育費の支援をしてきた。さらに踏み込んで婚活支援をしていく必要がある。

Q:少子化対策はどうなっているのか。

A:基本的に国全体で取り組まなければならない。市としても対策を講じているが、さらに充実するよう執行部に要請したい。

要:婚活サポートをしっかりとやってほしい。

要:鳥砂川の河床ざらいをしっかりとやってほしい。

要:大平町には素晴らしいグラウンドゴルフ場があるので、旧栃木市内にも専用のグラウンドゴルフ場を設置してほしい。

○西方公民館 10月26日(金)

<テーマなし>

意:斎場再整備について、岩舟に建設する斎場の規模を小さくして、現斎場との2本立てにすれば問題は解決すると思うがいかがか。

A:要望として執行部へ伝える。

意: 斎場再整備検討委員会の報告が地域住民に対してされていない。地域の代表者が誰なのかも知らない。住民にもっと分かりやすく説明し、意見を聞くべきである。

意: 現市長は副市長を中心とした斎場再検討委員会を作っており、その答申が出ていないのに、なぜ、議会は早計に結論を出すのか。執行部とうまくやり、折り合いをつけるべきだ。

意: 市長が変わったのだから新斎場建設地を見直すべきだ。

Q: 市民の利便性を考えれば、西方から出ている陳情書のように、平井町にある現斎場とその周辺を活用する形で進めた方が良いと考えるが、その点どのように考えているか。

A: 確かに遠くなるということはあるが、そのような不便は運用の中で対応できると考えている。施設が近くなった遠くなったは、合併の宿命でやむを得ない面もあり、それを容認できるかできないかで判断していけば良いと考えている。

要: 斎場再整備について、なぜ岩舟地域の南部清掃工場跡に決定したのか、評価の過程が見えてこない。評価表を住民に示した上で、説明してほしい。

A: 執行部に要望していきたい。

意: あまりにも周りが発展している場所は、斎場建設地にそぐわない。その点、現斎場周辺は開発されすぎているように感じる。見直しを提案するのであれば、ビジョンを示すべきである。

A: 執行部に要望していきたい。

Q: 新斎場建設候補地である南部清掃工場跡の土砂災害警戒区域が、新たに拡張されたという点が心配である。議会として調査、あるいは関係機関との協議はしたのか。

A: 議会として調査はしていないが、現地確認等はしている。調査は執行権を持つ執行部が行うべきものと考えている。また、土砂災害警戒区域が拡張されるということは事前に説明を受けており、それを折り込んだ上で問題ないという判断をしている。

Q: 今後大きな事業がある度に、反市長派と市長派21対9という状況が継続するのか。

A: 決して混乱を望んでいるわけではない。案件により判断していきたいと考えている。

○栃木文化会館 10月29日(月)

<テーマ:子育て支援について>

Q: 子どもの医療費負担について、栃木市はどうか。

A: 栃木市は中学3年生までは窓口負担はなしである。栃木県としては就学前までが無料で、県北の方では高校生まで無料のところもある。

要: 視覚障がい者の保育園、学校について、市内には受け入れて貰える場所がない。盲学校は県内には宇都宮市にしかなく、片道1時間かかってしまう。視覚障がい者に



対応できる特別支援学級を市内にも整備してほしい。

A:要望していく。

意:1人世帯の高齢者の弁当代を半分負担している。仕事をしている世代の子ども達の給食を無料にするのはいかなものか。

A:弁当については、独居老人の方の安否の確認も兼ねて宅配している。

Q:独居老人の弁当代と給食費無償化について、両方の事業について計算した時、高齢者の宅配弁当の予算にどれくらい影響が出るのか。

A:現在、給食費無償化については、プロジェクトチームを立ち上げている段階である。どの予算を削減して、捻出していか検討しているところである。直接的に独居老人の宅配弁当の予算がなくなるよという明確な決定はない。

Q:雨の日に子どもを遊ばせるのに小山市や佐野市に行くことが多い。子どもの遊び場整備の進捗状況は。

A:下都賀総合病院の精神病棟を市で購入した。老朽化が激しいため、現在の建物をリフォームするだけでは造れない。現在、新築するのか、場所を改めるのかを検討している段階である。

<テーマなし>

要:県の思川開発事業について、南摩ダムを建設し、思川からの表流水を取水することになると、10年先には水道料金が倍になる可能性もある。この問題には市議会として反対してほしい。

A:広域的な問題であり、ダムを必要としている市もあるため、自分達の市だけではなく、周りの市のことも考えなければならない。また、地下水が汚染されたときにも安全な水を市民に供給できるよう様々な方策を検討する必要があるということは、ご理解いただきたいと思う。

意:県の思川開発事業について、南摩ダムには水がなく、ダム自体が問題である。無駄なダムを造って、その水を市民が買わされることになる。

意:県の思川開発事業について、なぜ栃木市が思川の表流水を買う必要があるのか。

要:杳冷川について、約50年前は地下水が湧いていたが、今は湧いていないところがない。地下水だけの利用は難しいと思う。水対策をしっかりとやってほしい。

Q:斎場再整備について、人件費がかかりすぎている。今までに2億3千万円かかっていると聞いているが、どうなっているか。

A:今までかけてきた予算は土壌調査、PFIの導入、進入路の拡張、測量設計である。今までかけてきた予算については、無駄ではない。

要:ハザードマップの見直しをする際に、避難所の見直しもしてほしい。

意:自主防災組織を設立した後、補助金2万円では何もできない。

要: 氾濫防止のため、巴波川の川底を30cm掘り、砂利を取ってほしい。できない箇所があるとのことだが、やれるところからやってほしい。

要: 栃木図書館の運営・設計について、司書を雇わなくなってから学力が低下してきた。また、図書館中央の螺旋階段は設計ミスであり、近くの図書館に埃がかぶりやすくなっている衛生上良くない。返却ボックスは本の小口が傷んでしまうので、改善してほしい。

要: 栃木市民読書の日を制定するなど、もっと本を読むよう対策をとってほしい。

意: 栃木市には小規模特認校もあるので、子育てしやすい街をキャッチフレーズにPRをし、移住者を増やす政策を実施していくべきである。

意: 日本全国で人口減少となっており、出生率が低下している。栃木市だけをPRしても、近隣市も同じ政策をしようと思う。

A: 宝島社が発行している「住みたい田舎ランキング」で1位を取得したことをPRすることは良いが、分析することは必要だと思う。

意: 栃木市も人口減少が進んでいる。仕事がないため、子どもが地元に戻らない。親が取り残されている。

意: 合併後、人件費や公共施設の削減が進んでいない。

意: 予算が適正に使われているのかチェックするのが議会の仕事である。人口が減少しているのに、財政は減少していない。

要: 議員は市民の代表である意識を持って、もっと外に出て市民の声を聞いてほしい。

○藤岡公民館 10月29日(月)

<テーマ:子育て支援について>

意: 給食費無償化は考えた方が良くと思う。

意: 給食費無償化を行う際には、所得制限を設けてはどうか。

A: そのようなことも踏まえて検討していると思う。

Q: 市長の公約で、とちぎメディカルセンターに産婦人科開設とあったが、その後計画はどのように進んでいるのか。

A: 現在、行政側ととちぎメディカルセンターとでの協議を行っており、検討中である。



意:産科が1か所しかないのに、出生率を上げるのは難しいのではないか。

A:とちぎメディカルセンターへの産科開設に向けて、市は努力している。

Q:とちぎメディカルセンターに産科を開設した場合、市内の全出産に対応できるのか。

A:不可能だと思われる。

要:出産に関して女性が安心して産める医療を整備してほしい。

意:子どもの遊び場建設の予定地は藤岡から遠い。藤岡にも同様の施設はできないか。

A:大型施設なので1市に1か所となる。小山・足利等の施設も利用できるので安心してほしい。

Q:子育て支援について、栃木市独自の取組みはあるのか。

A:今回の資料では示していないが、栃木市には先進的な取組みもあるかと思うので、その周知をしっかりとっていくことがこれからの課題であると考えている。

<テーマなし>

Q:旧町議会棟の今後の処理・活用はどうするのか。

A:公共施設については、今後30年間で25%の削減を目標に、複合化・長寿命化・解体等の様々な選択肢を議論しているところであり、今後方向性が示されると思う。旧藤岡町の議会堂については民間に貸すのも難しいと思うので、解体の方向で進んでいると思う。

Q:市で所有している施設に固定資産税はかかるのか。

A:非課税である。

要:気球は維持費もかかるし、耐用年数は3年と聞いている。活用しないともったいないので、気球を活用した観光について検討してほしい。

意:市街化調整区域において、50戸連たんによる開発が進んでいる。将来的にインフラにかかる経費は市で負担することになるので考えた方がよい。

意:空きアパートを市で借上げ市営住宅として利用するなどの活用を考えてみてはどうか。

意:田舎の空き家が増えてきている。解体費用も上がってきているし、解体すると固定資産税が高くなることも原因の一つだと思う。

A:空き家登録して相手を探してもらおうか、解体するなら市の助成金を活用してほしい。条件によって上限50万、または25万の助成がある。

Q:藤岡地域は市の水道を利用している人は多いのか。

A:藤岡地域には共同水道があり、価格が市の水道よりも安いいため、なかなか市の水道を利用してもらえないということがある。

要: 栃木市の水道ビジョンにおいて、老朽管の交換等により20%程度の値上げが検討されていると聞いた。加えて、南摩ダムの水を県から購入することになれば、さらに値上げされると聞いている。考えてほしい。

意: 中学校の部活動に対して、先生以外の専門知識のある方をお願いできないか。

A: 他の自治体でも先生以外の方をお願いしている傾向にある。提案していきたい。

意: 藤岡地域には病院(医者)が少ない。緊急の場合、とちぎメディカルセンターでは時間がかかる。どうにかならないか。

A: 人口減少の中で病院ができるのは難しいと思う。

意: 栃木市は旧栃木市の時から、借地が多すぎると思う。減らすべきではないか。

A: 今後、議員側からも提案していきたい。

要: 遊水地にイノシシが70頭くらいいるとのことなので、対策を考えてほしい。

要: 渡良瀬の里を宿泊施設として利用できるようにしてほしい。

要: ふれあいトークでも提案・要望を行ったが、みかも公民館の修繕をしてほしい。

要: 三轟地区の排水対策をしっかりとやってほしい。

要: 要望した事項に対して、なかなか返事がなく改善してもらえない。予算の使い道を示してほしい。

意: 議会報告会の参加者数が少ないのではないか。

A: 多くの方に参加していただけるよう、自治会への周知を進めている。

○都賀公民館 10月30日(火)

<テーマ:子育て支援について>

Q: 給食費無償化の進捗状況はどうなっているのか。

A: 来年度より段階的実施の方向で検討中である。現状では具体的な実施内容を伝えることができない状況である。

Q: 給食費無償化についてはどうなっているのか。

A: 既存事業等の見直しにより、恒久的な財源を確保しながら、来年度から段階的に実施する。

Q: 給食費無償化に反対する議員はいないのか。

A: 一般質問等で意見は出てきているが、まだ議案として提出されておらず、不透明なところである。

要: 給食費無償化について、市長公約でもあるのだから、段階的でも良いので早く実現してほしい。



意: 少子化対策として、給食費無償化は推進すべきである。教育には費用がかかるので、少しでも負担の軽減をするべきである。

意: 給食費無償化の進捗状況について、他の市と比較すると、実施は難しいのではないかと。また、所得制限を設けず、一律での検討はおかしい。給食費無料化には反対である。

A: 具体的な対策は議会には提出されていない。

Q: 子どもの遊び場整備の進捗状況はどうなっているのか。

A: 当初は下都賀病院精神病棟をリフォームして利用する案であったが、解体新築する案や、カインズモールテナントへの入居案などがあり、まだ計画中である。

Q: 子どもの遊び場はそもそも収支が見込める施設なのか。

A: 他市の例を見ると、この事業だけで収支をとることは不可能である。

意: 子どもの遊び場の必要性は低い。他の子育て支援にお金をかけるべきである。

Q: 産科設置は難しいのではないかと。

A: 議会にはまだ具体的に提示されていない。

Q: 子育て支援の予算は大丈夫なのか。

A: 「栃木市子ども・子育て支援事業計画」を策定してきた。引き続き第2期計画を策定し、子ども・子育て支援を推進していく。

意: 子育て支援の補助制度について、就学援助制度があるが利用率が少ない。学校と民生委員にまかせすぎであり、全員に配布し、広く申請できるようにするべき。

要: 保育園や学童保育の時間延長を検討してほしい。

要: 子育て支援策として、教育費にお金をかけている家庭が多いので、18歳まで教育支援をしてほしい。

<テーマなし>

意: 新斎場建設費を早く市民に提示すべきである。

意: 斎場再整備について、決まったことは進めるべきである。

意: 斎場再整備について、皆川地区から岩舟町三谷地区にトンネルを掘り対応したらどうかと思う。その際、県道に昇格させて、県の予算で対応したら良いと考える。

意: 県の思川開発事業についての問題を市政だよりで知った。地下水から河川水の利用を導入して

いくと、市の水が「不味くて、料金が高くなる」のではないだろうか。

要: 県の思川開発事業について、市は南摩ダムの水を買おうとしているが、料金も上がるし、浄化施設の設置などかなりの費用がかかるので、断固として阻止してほしい。

Q: 最近、外国人をよく見かけるが、市内の外国人居住者は何人なのか。

A: 調査して報告する。

Q: 文化芸術館の進捗状況はどうなっているのか。

A: 従来の設計内容を縮小し変更設計中である。平成33年度の開館を目指す。

Q: 栃木インター付近の産業団地計画について、どのような進捗状況か。

A: 現在、調査に入り、県と協議している。

Q: 現道の拡幅工事ができないか。

A: 現道付近には、家並みなどが建っているため、道路の拡幅は難しい。

要: 舗装面のデコボコが多いので、修繕してほしい。

A: 舗装工事については、毎年2億円の予算を計上しており、順番に工事を実施している状況である。

Q: 小学生のランドセルが非常に重くなってきている。必要最小限の物だけにできないのか。

A: 今後検討し、そのような方向にしていきたい。

要: 国保税について、国保税が高すぎるので、下げてほしい。

○岩舟公民館 10月30日(火)

<テーマ:子育て支援について>

Q: 子育て支援について、出生から義務教育終了までに支援金の総額はいくらになるのか。

A: 医療費など個人差はあるが、調査して後日報告する。

Q: 給食費無償化はどのように進めるのか。

A: 各部署にプロジェクトチームを作り、予算の検討を行っている。

Q: 給食費無償化はいつ頃からか。

A: 具体的な内容については、現在検討中である。

Q: 保育園の給食費無償化は検討されているのか。

A: 検討されていないと思う。保育料については国の施策で無償化が決定している。



意:給食費無償化について、無償化の必要はない。地産地消で安心・安全な給食を提供していただければ有料でも良い。

要:待機児童を減らしてほしい。

<テーマなし>

Q:斎場建設候補地である南部清掃工場跡には、産業廃棄物が埋設されているという話だがどうか。

A:南部清掃工場を建設する際に埋立てをした経緯があるが、建設当時のことはわからない。後日、調査して報告する。

Q:南部清掃工場跡の上に残土を埋めた経緯がある。もし、残土が流れてきて近くにある溜が溢れた場合どうするのか。また、建設されれば周辺道路の交通量も増加すると思うが、対策はどうなっているのか。

A:検討していく。

Q:新斎場の完成はいつ頃か。

A:合併特例債を使い、平成34年度の完成を目指している。

要:南部清掃工場跡に斎場を建設するならば、残土対策をしっかりやって欲しい。対策がされないなら反対である。

意:斎場は栃木市全体を見たときに北と南の中間点に建設すべきである。

意:南部清掃工場跡周辺の道路は農道が多いため、道が狭く車のすれ違いができない場所もある。このような道路を整備すれば多くの費用がかかると思うので、よく考えた方が良い。

意:南部清掃工場跡の入口は急傾斜かつカーブしており危険である。信号機の設置や道路改良が必要と思う。

A:今後の整備については要望していく。

要:斎場再整備について、合併特例債が使えなくなると市民への財政負担が増えるので、早期に着工してほしい。

Q:観光農園いわふねについて、赤字は 2,000 万円と聞いていたが、市のふれあいトークで市長は 2,000 万の黒字と発言したが、実際はどうなのか。

A:2,000 万の赤字が改善したことを、2,000 万の黒字と誤って発言したのではないかと。

意:観光農園いわふねの花野果ひろばについて、土日午後買いものに行くと欠品が多く、農産物の補充ができていない。

A:地場産農産物の供給を増やすなどの対応を要望していく。

Q:市長は給食費無償化や斎場建設地再検討など、市民を惑わせているようにしか見受けられない。リコールするような動きはあるのか。

A:市長は市民の信任を得て市長になっているので、約束したことを実行していくのが市長の責任だと思う。

意:ハード面での整備よりソフト面を充実してほしい。その財源確保策として、公共事業の入札を厳しくしてはどうか。

A:落札率が90%を超えることが多いのは、予定価格の事前公表と民間企業の企業努力による積算能力の向上があるためである。

意:ふれあいバスの乗客が少ない。

A:朝夕は学生が利用している。来年度見直し、乗客の増加に努める。

要:ふれあいバスを曲ヶ島にも通るようにしてほしい。

要:通学路整備を始め、安心して学校に通わせることができる仕組みを整えてほしい。

要:静和小学校の給食に使う食器洗浄機が壊れているので、すぐ直してほしい。

要:保育園・幼稚園への補助金の内容をしっかりと審査してほしい。

意:給食費無償化の財源は職員の削減により捻出できる。合併時に組織改革を行い、職員数を削減するべきだった。

要:静和公民館はグラウンドゴルフ場があるため、外にトイレを設置してほしい。また、グラウンドゴルフ場の敷地を拡張してほしい。

要:カーブミラーの設置や道路の舗装工事の要望をしても返答がないので改善してほしい。

意:参加者の憶測による発言が多い。憶測での発言はいかがなものか。

平成29年度議会報告会開催に伴う提言書に対する市の対応

○提言事項1 防災対策の強化について

災害発生時の市民への迅速で正確な情報提供は、被害を最小限に抑えるために必要不可欠なものである。防災行政無線や防災ラジオについて、引き続き環境整備に取り組むとともに、地域の実情に応じた情報提供手段の確立に努められたい。

また、災害発生時に確実な避難を行うため、指定緊急避難場所や避難行動要支援者制度などについて、市民への周知徹底を図られたい。

さらに、自助・共助による防災活動を行う自主防災組織への支援や各地域での防災訓練の実施を通して、地域防災力の向上に取り組まれたい。

今後いつ起こるか分からない災害に備え、万全な体制で臨まれたい。

<市の対応> 所管課:危機管理課、地域づくり推進課、大平地域づくり推進課、藤岡地域づくり推進課、都賀地域づくり推進課、西方地域づくり推進課、岩舟地域づくり推進課、福祉総務課、消防総務課

- ・防災行政無線の整備、コミュニティFM放送の受信環境の改善、防災ラジオの普及促進、市のホームページ等への情報掲載、ケーブルテレビ文字放送や緊急速報メールによる配信等を実施する。
- ・浸水想定区域の見直しや、災害の種類に応じた避難所の指定等のハザードマップの改訂を行う。
- ・避難行動要支援者について、出前講座等を通じた周知や対応マニュアルを策定していく。

○提言事項2 安全・安心なまちづくりの取り組みについて

登下校中の児童生徒が被害者となる交通事故は依然として発生しており、通学路の交通安全の確保に努められたい。

また、安全に暮らせる快適な環境実現のため、防犯カメラ設置者との協力体制の構築、防犯灯の増設、警察署との連携に取り組まれたい。

さらに、議員提案により制定となった「栃木市自転車の安全な利用に関する条例」が本年4月1日から施行となることから、自転車の安全運転教育の推進や自転車専用レーンの整備促進に取り組まれたい。

<市の対応> 所管課:交通防犯課、道路河川維持課、学校施設課

- ・「栃木市通学路交通安全プログラム」に基づき、関係機関と連携し、毎年通学路の安全点検を実施。危険箇所については、「通学路の安全確保に係る連絡会議」を設置し、交通安全施設の設置等の検討や効果の把握を継続して行っていく。
- ・平成29年度から自治会が地域の防犯のため自主的に設置する防犯カメラの設置費補助制度を整備し、制度周知を図るとともに、自治会と相談しながら地域の安全の向上に努めていく。
- ・栃木駅を中心としたパトロールを警察と連携して実施していく。
- ・幼稚園や小学校、自治会、シニアクラブなどにおいて交通安全教室を実施していく。

- ・今後も、歩道や路側帯の道路構造等を考慮し、警察等との協議を踏まえ、自転車専用レーンの整備促進に努めていく。

○提言事項3 とちぎメディカルセンターへの支援について

「とちぎメディカルセンターしもつが」に対する市民の期待は大きく、質の高い安全・安心な医療が提供されるべく、更なる業務改善や施設整備について、メディカルセンターへ強く要望されたい。

また、現在、市内には分娩が行える医療機関は1か所のみであり、市内で安心して出産し、子育てできる環境を整えるためにも、産科の開設について支援を図られたい。

<市の対応> 所管課:健康増進課

- ・現在、部分的な固定資産税の減免や市有地の無償貸付、年間5億円の運転資金の無利子貸付を行っているが、今後もよりよい施設になるよう協議しながら改善を促していく。
- ・医師の確保や施設整備が必要となることから、すぐに産科を開設するのは非常に困難であるが、引き続きとちぎメディカルセンターへ要望を行うとともに、様々な方策を検討するため、関係機関と協議をしていく。

○提言事項4 道路整備による通行者の安全確保について

市道整備については、財政状況が厳しい中で、通行者の安全確保を第一に考慮した整備を推進するとともに、定期的な市道の巡回点検を行い、緊急性に配慮した維持補修を進められたい。

また、県道については、管理者である県と十分な協議を行い、安全対策を要望されたい。

<市の対応> 所管課:道路河川整備課、道路河川維持課、土木管理課

- ・「栃木市道路整備基本計画」に基づき、必要性や緊急性、通行者の安全確保を考慮した整備を計画的に行っていく。
- ・平成29年度よりスタートした「生活道路舗装修繕事業」により、未舗装道路の解消に努めていく。
- ・2名の臨時職員による日常的な市道等の巡回監視に加え、職員についても、通勤時等常に注意をもって危険箇所の発見や早期修繕に努めていく。
- ・県道については、通学路の合同点検の実施や安全な通行の確保について今後も要望していく。

○提言事項5 教育環境の整備充実について

限られた予算を効果的に活用し、学校トイレや空調設備等の整備を進め、快適な教育環境の整備充実を努められたい。

また、「小規模特認校制度」や「小中学校適正配置基本方針」について、市民への周知を図り、制度の充実や各学校の適正配置に努められたい。

さらに、スクールガードの拡充や学校施設周辺への防犯カメラの設置により、子どもの安全対策の充実に引き続き取り組まれたい。

<市の対応> 所管課:教育総務課、交通防犯課、学校教育課、学校施設課

- ・空調設備については、平成26年度に中学校を、平成27、28年度には小学校の普通教室や特別

教室にエアコンを設置する工事を行った。

- ・トイレについては、平成30年度で全ての小学校トイレの洋式化等の環境改善が終了する。引き続き、中学校についても進めていく。
- ・「小規模特認校制度」については、学校紹介パンフレットを全ての就学前5歳児の家庭へ配布しているほか、当該校において説明会やオープンスクールを開催し、周知活動の充実を図っている。
- ・「小中学校適正配置」については、保護者や地域の意見を尊重するため、保護者や地域住民の代表者で構成される地元代表協議会を設置し、協議を進めていくとともに、協議内容を広報紙により地域に発信していく。
- ・今後も登下校見守り隊の募集を「広報とちぎ」等を活用して行うほか、研修会において実施状況の情報交換を行い活動の充実に努めていく。
- ・防犯カメラの設置については、犯罪発生状況や市民の要望を踏まえて個別に判断し、犯罪発生の不安が大きい学校周辺の市有施設を優先して設置していく。

○提言事項6 次代を担う人材の確保・育成について

少子高齢化の進行による人口減少社会の到来により、福祉・農業・建設などの多くの分野で人材不足に対する危機感が高まっており、本市が持続的に発展し続けるための人材の確保や育成に取り組まれない。

また、住みたい田舎ベストランキングにおける2年連続の上位獲得は、移住・定住施策の取り組みの成果であり、引き続き、誰もが住みやすいまちづくりを進められたい。

<市の対応> 所管課:総合政策課、地域包括ケア推進課、商工振興課、農業振興課、住宅課

- ・農業分野では「栃木市版農業の手引き」を作成するとともに、「農業インターンシップ事業」の展開や「新規就農サポート事業」の年齢制限要件を緩和し、市内外の新規就農者の確保に努めている。
- ・福祉分野では介護技術向上や人材確保を目的とした「栃木市生活サポーター(あったかいご員)養成事業」や学生への補助金制度「栃木市介護人材確保対策事業補助金」などを実施している。
- ・若者や女性等の創業に関する機運を高める「蔵の街とちぎビジネスプランコンテスト」の開催や関係機関との連携による合同就職面接会など独自の取り組みを推進し、人材の確保や育成に力を入れていく。
- ・移住促進対策としては、これまでの施策に加え、平成30年4月にオープンした「IJUテラス蔵人館」に併設するカフェを内閣府が認定する地域活性化伝道師に運営してもらうなど、新たな人材活用にも取り組んでいく。